

授業科目名： 子どもと健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：仁藤喜久子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・健康		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・幼児にとっての健康について理解する。また、年齢にあった体育・運動技術を習得する。 ・到達目標：① 幼児教育学の基本である、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される内容（健康や身体表現、運動遊び）について理解する。② 自己の身体能力や運動技術の向上を目指す。③ 幼児の発育・発達を理解し、運動遊びの指導力を身につける。			
<b>授業の概要</b> ・幼児期の身体運動及び運動遊びの基礎理論を深めるとともに、自信の身体能力や運動技術の向上を図る。また、幼児期に体得すべき基礎的運動動作を習得し、運動遊びにおける安全教育及び安全管理についても学ぶ。さらに、自己の指導技術の向上だけでなく、グループ活動を通してコミュニケーション能力を高めていく。 ・アクティブラーニングとICT(manaba・respon)を活用した授業を実施する。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション…授業の進め方、注意事項 第2回：新体力テスト 第3回：人とかかわる遊び 第4回：小型遊具の遊び（ボール） 第5回：小型遊具の遊び（縄） 第6回：小型遊具の遊び（フラフープ） 第7回：大型遊具の遊び（マット・跳び箱・平均台） 第8回：固定遊具の遊び（鉄棒・ブランコ・滑り台） 第9回：自然と関わる遊び 第10回：色々な素材を使った遊び 第11回：グループ活動（人とかかわる遊び） 第12回：グループ活動（小型遊具） 第13回：グループ活動（大型遊具） 第14回：水を使った遊び 第15回：授業の振り返り・まとめと今後の課題、定期試験			
<b>テキスト</b> ・宮下恭子編著「運動あそび・表現あそび～指導法を身につける理論と実例～」大学図書出版、2018 ・茗井・宮下・平山編著「乳幼児の健康―教育・保育に向けた計画と実践―」大学図書出版、2019			
<b>参考書・参考資料等</b> ・幼稚園教育要領（平成29年3月31日文科科学省告示）・保育所保育指針（平成29年3月31日厚生労働省告示）・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月31日内閣府・文科科学省・厚生労働省告示）			
<b>学生に対する評価</b> ①試験（30%）…実技試験やグループ発表などを実施する。 ②受講態度（40%）…授業態度を重要視するため積極的に参加する。 ③レポート（30%）…授業終了後に授業のワークシート（振り返り）を提出する。			

授業科目名： 子どもと人間関係	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松好 伸一 担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・人間関係		
授業のテーマ及び到達目標			
①乳幼児期の人間関係の発達に関する知識と現代的課題の理解 ②保育者としての子どもに対する共感の姿勢の理解 ③幼児期の仲間関係を支える保育者としての援助の理念の理解			
授業の概要			
愛着の形成から仲間関係まで、乳幼児期の人間関係・社会性の育ちに関する基礎的な知識を学修する。また、保育者に求められる共感性について事例や省察によって考察・理解を深める。幼児期の仲間関係や集団遊びを支える保育者の役割や地域子育て支援との関連について学ぶ。			
授業計画			
第1回：授業ガイダンス			
第2回：自己理解と自己概念			
第3回：社会・文化に生きる子ども			
第4回：領域「人間関係」が目指すもの			
第5回：領域「人間関係」の基礎知識			
第6回：0～2歳児の保育所における人との関わり			
第7回：3歳児「保育者が居場所」			
第8回：4歳児「自己主張と自己制御」			
第9回：5歳児「園生活の充実感を支えるもの」			
第10回：かけがえのない一人ひとりの存在			
第11回：保護者との関わり			
第12回：保育者同士の関わり			
第13回：関わりの育ちを見る			
第14回：新しい人との体験			
第15回：振り返りとまとめ			
定期試験			
テキスト：萌文書林「体験する 調べる 考える 領域『人間関係』」田宮縁			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領解説（文部科学省）、保育所保育指針解説（厚生労働省）			
学生に対する評価：定期試験(60%)、授業への参加意欲及びリアクションペーパー（40%）			

授業科目名： 子どもと環境	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松好伸一 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・環境		
授業のテーマ及び到達目標			
①幼児を取り巻く環境と、幼児の発達の一貫性・連続性からの領域「環境」の意義を理解する			
②幼児期の認知機能・理解・概念形成の発達を理解する			
③幼児期の文字や数字、標識、周囲の事象との関わりと、それに伴う発達を理解する			
授業の概要：領域「環境」の指導で必要となる感覚・感性や、教育内容に関する知識・技術を身に付ける。現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりの発達等についての学びを特に深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス，領域「環境」について			
第2回：人間の生活と環境			
第3回：ESDとSDGs			
第4回：子どもを取り巻く環境の変化			
第5回：保育計画におけるねらいおよび内容について			
第6回：園の保育環境について			
第7回：0歳から3歳までの子どもの発達と環境			
第8回：自然とのふれあい（フィールドワーク）			
第9回：素材遊びから受ける影響と意図			
第10回：季節と保育と環境			
第11回：身の回りの命と子ども			
第12回：家庭にある素材の利用の工夫			
第13回：身近な科学と遊び			
第14回：数量・図形・文字・標識			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト：萌文書林「体験する 調べる 考える 領域『環境』」田宮縁			
参考書・参考資料等			
郁洋舎「改訂 環境構成の理論と実践 保育の専門性に基づいて」			
学生に対する評価：期末試験(60%)，授業への参加態度とリアクションペーパー(40%)			

授業科目名： 子どもと言葉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐藤 深雪 三浦 主博 担当形態：複数
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 言葉		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>			
保育内容の領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。			
<b>授業の概要</b>			
子どもの言葉の基礎的理論について、及び様々な場面における保育者の言葉がけの役割や方法について説明する。また、言葉遊びや絵本・紙芝居の教材研究や実演練習を行う。			
<b>授業計画</b>			
第1回:オリエンテーション			
第2回:言葉の指導と教材研究:「季節(秋)の課題」の作成・発表			
第3回:言葉の意義			
第4回:言葉の機能			
第5回:言葉の指導と教材研究:様々なことば遊びの紹介			
第6回:言葉の指導と教材研究:ことば遊びの実際(季節(秋)の遊び)			
第7回:言葉の指導と教材研究:ことば遊びと保育への取り入れ方			
第8回:言葉の指導と教材研究:様々な児童文化財の紹介			
第9回:言葉の指導と教材研究:紙芝居・絵本の理解			
第10回:言葉の指導と教材研究:紙芝居(グループごとの練習)			
第11回:言葉の指導と教材研究:紙芝居(前回の課題を踏まえ、グループごとに練習)			
第12回:言葉の指導と教材研究:絵本(グループごとの練習)			
第13回:言葉の指導と教材研究:絵本(前回の課題を踏まえ、グループごとに練習)			
第14回:言葉の指導と教材研究:ことば遊びの実際(季節(冬)の遊び)			
第15回:言葉の指導と教材研究:「季節(冬)の課題」の作成・発表			
定期試験は実施しない。			
<b>テキスト</b> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)／幼稚園教育要領解説(文部科学省)			
<b>参考書・参考資料等</b> 子どもとかかわる人のための心理学(沼山博・三浦主博編著、萌文書林)／幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)／保育所保育指針解説(厚生労働省)／幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文科省・厚労省)			
<b>学生に対する評価</b> 授業への取り組みの状況(40%)及び提出課題(60%)により総合的に評価する。			

授業科目名： 子どもと音楽	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：四家 昌博 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現		
授業のテーマ及び到達目標 ・保育、教育の実践に必要な音楽に関する基礎的な知識や技能を身に付け、理解を深める。 ・楽典、ソルフェージュの基礎的な能力を身に付ける。			
授業の概要 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「5領域のうちの一つである「表現」のうち、とくに音楽表現について学習する。手遊びやこどもの歌、簡易楽器の演奏、ピアノでの伴奏法など、保育・幼児教育の実践において音楽表現に必要な知識や技能を身に付ける。また、幼児教育・保育の現場で必要となる音楽の理解を深めるために、基本的な楽典について学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、譜表と音名、音符・休符、手遊び、弾き歌い 第2回：音名、音符・休符、コードネーム、手遊び、弾き歌い 第3回：音名、コードネーム、音程、手遊び、弾き歌い 第4回：音名、コード伴奏付け、音程、拍子・リズム、手遊び、弾き歌い 第5回：コード伴奏付け、音程、拍子・リズム、手遊び、弾き歌い 第6回：音程、拍子・リズム、音階、手遊び、弾き歌い 第7回：音程、音階、手遊び、弾き歌い 第8回：音階と調①(♯系の長調・短調)、手遊び、弾き歌い 第9回：音階と調②(♭系の長調・短調)、手遊び、弾き歌い 第10回：音階と調③(調の近親関係)、和音とコードネーム(M、m、7など)、手遊び、弾き歌い 第11回：音階と調④(移調)、和音とコードネーム(いろいろなコード)、手遊び、弾き歌い 第12回：音階と調⑤(まとめ)、和音とコードネーム(まとめ)、手遊び、弾き歌い 第13回：楽語、簡易楽器、保育の音楽活用法、手遊び、弾き歌い 第14回：簡易楽器、保育上の音楽活用法、手遊び、弾き歌い 第15回：振り返りとこれまでのまとめ 定期試験：筆記試験、実技試験			
テキスト 音符と鍵盤でおぼえるわかりやすい楽典 音楽之友社 こどものうた100 チャイルド社			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年告示 厚生労働省) 保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省) その他は授業中に適宜配付する。			
学生に対する評価 課題、発表(40%) 試験(60%)			

授業科目名： 子どもと造形	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：千 凡晋 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教育・保育現場での活用を念頭に置き、多様な画材・材料の探索、用具の扱い方などを学び、造形表現に関する応用力を高める。</li> <li>・様々な造形表現の技法を学び、子どもの造形活動を支える知識・技能を身につける。</li> <li>・自ら材料、技法、題材を選び、製作の計画を立てて進みながら、教育・保育現場での具体的な援助や指導の手立てを見つけ、実践する力を養う。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>子どもが楽しく取り組める様々な表現技法を学び、それを用いて製作を行うことで、実際保育所・幼稚園・認定こども園などで行われる造形活動を支える知識と技能を身につける。本授業では学生主導のアクティブラーニングを用い、製作活動を通して作り上げる楽しさと喜びを体験しながら教育・保育現場での造形活動に関する支援や指導の方法を自ら発見し、応用的に実践することを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：立体表現の探索1「小麦粉粘土の製作」</p> <p>第3回：立体表現の探索2「日常用品（紙皿・紙コップ）を用いた表現」</p> <p>第4回：平面表現の探索1「日常用品（キッチン用スポンジ）を用いた表現」</p> <p>第5回：平面表現の探索2「野菜スタンプなどの表現」</p> <p>第6回：平面・立体表現探索1「手形・フィンガーペイント表現①」（構想・準備・実践）</p> <p>第7回：平面・立体表現探索2「手形・フィンガーペイント表現②」（実践・まとめ）</p> <p>第8回：造形遊びの探索「新聞紙を使った造形表現・遊び」</p> <p>第9回：保育教材製作の探索1「ペープサートの製作」</p> <p>第10回：保育教材製作の探索2「未満児用の遊具の製作」</p> <p>第11回：自由制作1（構想・計画）</p> <p>第12回：自由制作2（製作・完成）</p> <p>第13回：自由製作の発表会1（3歳未満児対象の製作について）</p> <p>第14回：自由製作の発表会2（3歳以上児対象の製作について）</p> <p>第15回：振り返りと作品集の感想会</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト 使用しない。			
参考書・参考資料等 随時、材料と制作技法に関する資料を作成し、配布する。			
<p>学生に対する評価</p> <p>成果物（50%）、自由製作（20%）、課題（20%）、受講態度（10%）</p>			

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：東 義也 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：保育内容の全体像を掴み、特に子どもの自発的な活動としての遊びの重要性について理解できる。</p> <p>到達目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想・展開できる力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>子どもの生活と発達、子どもの活動とよりよき育ちにかかわる園生活のありようについて、保育内容の全領域から総合的に把握できるように授業を展開する。特に、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びを実現するために、グループディスカッションを行ったり、情報機器及び教材を十分に活用したり、保育案を作成するなど具体的な保育実践ができるようにする。特に、子どもの遊びの重要性についてはこれを強調し実践する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、授業の進め方 第2回：保育の基本と保育内容の総合的理解 第3回：保育の基本と保育のあり方 第4回：幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の保育の内容 第5回：保育内容の基本構造 第6回：学びの連続性 第7回：子ども理解と保育 第8回：子どもにとって遊びとは何か 第9回：総合的指導としての保育 第10回：保育の計画と記録 第11回：子どもの姿を読み取る（事例研究） 第12回：乳児期の子供の遊び、活動と教材研究 第13回：幼児前期（1～3歳未満児）の子どもの遊び、活動と教材研究 第14回：幼児後期の子どもの遊びと生活 第15回：模擬保育</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>太田光洋編『保育内容総論～生活・遊び・活動を通して育ちあう保育を創る～』同文書院、2019年</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』、2018年 厚生労働省『保育所保育指針解説書』、2018年 内閣府、他『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、2018年</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験（50％）：保育環境の意味、重要性、活かし方を理解できているか 課題（30％）：誠実に取り組んでいるか 姿勢（20％）：授業へ積極的に参加しているか（質問・意見、小グループでの討論・発表などまた、教員に対する質問や意見を述べることができるか）</p>			

授業科目名： 保育内容（健康）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仁藤喜久子 担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいと内容を理解する。①幼稚園教育要領における幼稚園の基本、領域「健康」のねらい及び内容、全体構造を理解している。②領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。④領域「健康」において、幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 ①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。②領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育に活用することができる。③指導案を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。⑤領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。			
<b>授業の概要</b> ・幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容について理解し、健康な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技能を身につける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発達・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身につける。・アクティブラーニングによるグループ活動とICTを活用した授業を実施する。			
<b>授業計画</b> 第1回: 保育における健康とは 第2回: 基本的な生活習慣の形成を支える援助 第3回: 健康管理と安全能力を支える援助 第4回: 健康な心と身体を育む保育の構想と情報機器の活用(健康指導・安全指導の立案) 第5回: 健康な心と身体を育む保育の構想と情報機器の活用(健康指導・安全指導の教材研究) 第6回: 健康な心と身体を育む保育の実践(健康指導・安全指導の模擬保育) 第7回: 健康な心と身体を育む保育の評価、改善と情報機器の活用①(健康指導・安全指導) 第8回: 多様な動きの経験を促す援助 第9回: 領域「健康」における心身の発達の特徴と踏まえた環境構成と援助と情報機器の活用 第10回: 健康な心と身体を育む保育の構想と情報機器の活用(運動遊びの立案) 第11回: 健康な心と身体を育む保育の構想と情報機器の活用(運動遊びの教材研究) 第12回: 健康な心と身体を育む保育の実践(運動遊びの模擬保育) 第13回: 健康な心と身体を育む保育の評価、改善と情報機器の活用②(運動遊び) 第14回: 幼児期に育まれる健康な心と身体と小学校の生活や学習で生かされる力 第15回: 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践 <b>定期試験</b>			
<b>テキスト</b> ・茗井・宮下・平山編著『乳幼児の健康—教育・保育に向けた計画と実践—』大学図書出版,219			
<b>参考書・参考資料等</b> ・幼稚園教育要領(平成29年3月31日 文部科学省告示)・保育所保育指針(平成29年3月31日 厚生労働省告示)・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月31日 内閣府・文部科学省・厚生労働省告示)			
<b>学生に対する評価</b> ①試験(50%)…授業のまとめとして筆記試験を実施する ②受講態度(30%) ③課題発表(20%)…オリジナルの保育教材を作成し発表する			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：松好伸一
保育内容（人間関係）	必修科目	2単位	担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>①幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>②領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器にについて、幼児の体験との関連を考慮しながら活用する等の留意点を理解している。</p> <p>③指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育を通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>			
<p>授業の概要： この科目は幼稚園での実務経験のある教員による授業である。</p> <p>①幼稚園教育要領の領域「人間関係」に示されているねらい及び内容について、事例や映像を通して具体的に学ぶ。</p> <p>②領域「人間関係」の教育的意義を理解し、幼児期の人と関わる力の発達や指導の基本となる理論について学ぶ。</p> <p>③幼児の人と関わる様々な場面について理解を深め、適切な指導について学ぶ。</p> <p>④zoomによるオンライン授業で、manabaを使用して行う。</p> <p>⑤幼稚園教諭の経験を生かして、模擬保育やプレゼンテーションなどアクティブラーニングを行い、実践的理論・技術を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（講義内容、進め方、）領域「人間関係」と他の領域との関連等について</p> <p>第2回：人間関係の発達課題について</p> <p>第3回：「子ども理解」の必要性</p> <p>第4回：子どもを取り巻く環境の問題</p> <p>第5回：遊びと人間関係</p> <p>第6回：集団生活と人間関係</p> <p>第7回：就学までに育てたい人間関係</p> <p>第8回：領域「人間関係」のねらいと内容及び保育実践と情報機器の活用 0-2歳</p> <p>第9回：領域「人間関係」のねらいと内容及び保育実践と情報機器の活用 3-6歳</p> <p>第10回：模擬保育の実践と情報機器の活用</p> <p>第11回：模擬保育の振り返りと情報機器の活用</p> <p>第12回：領域「人間関係」の指導計画と評価</p> <p>第13回：家庭や地域との連携で育む人間関係</p> <p>第14回：異年齢保育が育む人間関係</p> <p>第15回：特別な支援が必要な保育</p> <p>定期試験</p>			
テキスト：一藝社刊「コンパクト版保育者養成シリーズ 人間関係」			
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）			
学生に対する評価：定期試験（70%）、授業の最後に提出するリアクションペーパー（30%）			

授業科目名： 保育内容（環境）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 東義也・松好伸一
			担当形態：オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標： ① 身近な環境と幼児の関わりから、環境の教育的意義を理解することができる。 ② 領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用する等の留意点を理解している。 ③ 自然環境や物的環境との関わりを豊かに生み出す適切な指導方法を構想することができる。			
授業の概要： ① 幼稚園教育要領の領域「環境」に示されているねらい及び内容について、事例や映像を通して具体的に学ぶ。 ② 幼児を取り巻く様々な環境の教育的意義を理解し、幼児期の環境と関わる力の発達や指導の基本となる理論について学ぶ。 ③ 幼稚園教諭の経験を生かし、模擬保育やプレゼンテーションなどアクティブラーニングを行い、実践的理論・技術を学ぶ。			
授業計画 第1回: 幼児教育の基本(東・松好) 第2回: 子どもの発達と保育内容(東) 第3回: 領域環境のねらいと内容(東) 第4回: 子どもの遊びと環境構成(東) 第5回: 人的環境としての保育者の役割(東) 第6回: 物的環境と保育、情報機器の活用(1)―絵本(松好) 第7回: 物的環境と保育、情報機器の活用(2)―玩具(松好) 第8回: 物的環境と保育、情報機器の活用(3)―人形(松好) 第9回: 自然環境と保育、情報機器の活用(1)―土、泥(松好) 第10回: 自然環境と保育、情報機器の活用(2)―植物の栽培(松好) 第11回: 自然環境と保育、情報機器の活用(3)―動物の飼育(松好) 第12回: 社会的行事と保育、情報機器の活用(松好) 第13回: 保育内容(環境)の計画(指導案)と評価(松好) 第14回: 保育内容(環境)の模擬保育と振り返り、情報機器の活用(松好) 第15回: これからの保育内容(環境)の課題(松好・東) 定期試験			
テキスト：秋田喜代美監修『子どもの姿からはじめる領域・環境』みらい、2020年 幼稚園教育要領解説(文部科学省)			
参考書・参考資料等：厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2018年 内閣府、他『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年 郁洋舎刊「改訂 環境構成の理論と実践 保育の専門性に基づいて」高山静子			
学生に対する評価：期末試験（70%）、模擬保育及びリアクションペーパー(30%)			

授業科目名： 保育内容（言葉）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三浦 主博 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>			
①幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。②領域「言葉」に関する理論（言葉の意義や乳幼児の言葉の発達の過程）を理解する。③領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。			
<b>授業の概要</b>			
幼稚園・保育所・認定こども園での保育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。			
<b>授業計画</b>			
第1回：オリエンテーション・言葉の意義			
第2回：幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育教育要領等における領域「言葉」			
第3回：保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育教育要領等における領域「言葉」			
第4回：乳幼児の言葉の発達①（3歳未満児）			
第5回：乳幼児の言葉の発達②（3歳以上児）			
第6回：乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助			
第7回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝えあい」と小学校との接続			
第8回：言葉に関する遊びや児童文化財と指導計画			
第9回：言葉に関する遊びを取り入れた模擬保育と情報機器の活用			
第10回：児童文化財に関する教材研究と模擬保育①（教材としての紙芝居）			
第11回：児童文化財に関する教材研究と模擬保育②（紙芝居の実演）			
第12回：児童文化財に関する教材研究と模擬保育③（教材としての絵本）			
第13回：児童文化財に関する教材研究と模擬保育④（絵本の読み聞かせ）			
第14回：保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)／幼稚園教育要領解説(文部科学省)			
<b>参考書・参考資料等</b>			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)／保育所保育指針解説(厚生労働省)／幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文科省・厚労省)			
<b>学生に対する評価</b>			
授業への取り組みの状況(20%)、期末試験(50%)、及び提出課題(30%)により総合的に評価する。			

授業科目名： 保育内容(表現(音楽))	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：四家 昌博 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針等を理解し、乳幼児期の発達段階に応じたさまざまな音楽表現活動について学び、保育に必要な音楽表現の基礎を身に付ける。</li> <li>・グループ活動によるアンサンブル、身体的表現、音楽劇作りなどを通して、自主性やコミュニケーション能力を養い、総合的な表現の能力を身に付ける。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、季節の歌や遊び歌、絵かき歌、わらべうたなど子どもの歌を数多く学び、どのように歌うか、選曲の方法、子どもの発声、情報機器の活用など現場に即した表現活動を、演習を通して身に付ける。指導案を作成し、模擬保育を行い実践力を身に付ける。グループ活動による身体的音楽表現や、音楽劇の創作、発表を通して、音楽の総合的な表現力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもの音楽的発達について わらべうた 情報機器の活用について  第2回：リズム遊び①ボディパーカッション 季節の歌①春、夏の歌  第3回：リズム遊び②お手玉遊び、ボディパーカッション 季節の歌②秋、冬の歌、いろいろな歌  第4回：絵かき歌①体験、創作 ピアノ即興演奏①効果音  第5回：絵かき歌②発表 ピアノ即興演奏②動きと音楽  第6回：簡易楽器やタッチベルの演奏と指導法 指導案作成①(構想と記入方法について)  第7回：簡易楽器による合奏 指導案作成②(まとめ)  第8回：手作り楽器の作成 クリスマスの歌 模擬保育①(準備と実践)  第9回：手作り楽器発表、クリスマス発表会 模擬保育②(実践とまとめ)  第10回：ミニ劇遊び 模擬保育の振り返り  第11回：音楽劇遊び①作成要領、役割分担  第12回：音楽劇遊び②効果音について、台本製作  第13回：音楽劇遊び③グループ練習、大道具・小道具作成  第14回：音楽劇遊び④リハーサル  第15回：音楽劇遊び⑤発表、振り返り  定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト 音楽表現 新版・実践保育内容シリーズ5 (一藝社)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)  幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年 内閣府・文部科学省・厚生労働省)  保育所保育指針(平成29年告示 厚生労働省)保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)  その他は授業中に適宜配付する。</p>			
<p>学生に対する評価 課題、発表 (60%) レポート (40%)</p>			

授業科目名： 保育内容(表現(造形))	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：千凡晋 担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の造形活動や遊びを支援するための基礎的な知識・技能を身につける。</li> <li>・領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。</li> <li>・指導案の構造を理解し、幼児の発達特性を踏まえながら、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</li> <li>・模擬保育とその振り返りを通して保育を改善する視点を培う。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>乳幼児の造形表現における基礎となる理論かつ実践的な知識を学び、幼児の造形活動に取り入れられる材料と用具(情報機器及び教材の活用を含む)を用いて様々な表現方法を体験する。現行の保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、造形活動の目標と内容の理解を図りながら、乳幼児の造形活動や遊びを援助・指導するための指導法を構成、工夫する実践力を身につける。乳幼児の発達特性を考慮しながら、幼児にとっての総合的表現活動を構想・計画し、模擬保育を行うことで指導案の作成や援助・指導する実践力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーション、造形表現教育の位置づけ(表現における造形活動の意義と目的)</p> <p>第2回:乳幼児の造形表現の特性(造形表現の発達論・乳幼児の描画の特徴・発達の個人差)</p> <p>第3回:保育所保育指針・幼稚園教育要領等における「造形表現」(造形表現の目標と内容)</p> <p>第4回:造形活動の支援・指導に必要な基礎技能・技法の実践と応用、情報機器の活用</p> <p>第5回:保育計画の作成(保育計画作成の手順・保育案作成の方法)</p> <p>第6回:感性・イメージを豊かにする事例の探索(指導法・支援の仕方・指導上の留意点・評価方法)/春に行う造形活動の構想と実践案の作成、情報機器の活用</p> <p>第7回:遊びを豊かにする事例の探索(指導法・支援の仕方・指導上の留意点・評価方法)/夏に行う造形活動の構想と実践案の作成、情報機器の活用</p> <p>第8回:環境を豊かにする事例の探索(指導法・支援の仕方・指導上の留意点・評価方法)/秋に行う造形活動の構想と実践案の作成</p> <p>第9回:行事を豊かにする事例の探索(指導法・支援の仕方・指導上の留意点・評価方法)/冬に行う造形活動の構想と実践案の作成</p> <p>第10回:作る体験を豊かにする事例探索(指導法・支援の仕方・指導上の留意点・評価方法)/保育教材の作成</p> <p>第11回:保育実践研究1(グループワーク:対象・題材の設定・授業設計)保育教材、情報機器の活用方法①</p> <p>第12回:保育実践研究2(グループワーク:指導案の作成・教材見本の制作)保育教材の活用方法②</p> <p>第13回:模擬保育(春・夏の造形表現)(発表・反省と改善の検討)</p> <p>第14回:模擬保育(秋・冬の造形表現)(発表・反省と改善の検討)</p> <p>第15回:造形表現の支援・指導法の振り返りと小学校図画工作科とのつながりの理解</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト 『造形表現』谷田貝公昭監修、竹井史編、一藝社、2018</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省、2018</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、2018</p> <p>『保育所保育指針解説』厚生労働省、2018</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>提出物(30%)、保育実践研究(個別・グループ)の発表と模擬保育(60%)、受講態度(10%)</p>			

授業科目名： 保育内容(表現(身体))	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：仁藤喜久子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1.幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらいと内容を理解する。 ①幼稚園教育要領における幼稚園の基本、領域「表現」のねらい・内容、全体構造を理解している。 ②領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。④領域「表現」において、幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>2.幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 ①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。②領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育に活用することができる。③指導案を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。⑤領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育の向上に取り組むことができる。</p>			
<p>授業の概要 ・幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいと内容について理解し、表現活動を中心に乳幼児の実践に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感などの表現ツールを用いて、表現活動の特徴や面白さを認識し応用や発展を考え実践を重ね、身体表現の指導力を身につける。・アクティブラーニングとICTを活用した授業を実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：幼稚園教育における表現の指導（ねらいと内容）について 第2回：表現遊びの指導のための基礎理論について 第3回：幼児期の身体活動と小学校の体育との関連性について考える 第4回：表現遊びの実際：保育現場で行われている実践事例 第5回：表現遊びの実際：様々な素材を用いた事例 第6回：表現遊びの実際：五感を使った事例 第7回：表現遊びの実際：身体の触れ合い遊び・リズムダンスの事例 第8回：表現遊びの実際：自然の中での表現の事例 第9回：表現遊びの実際：用具を使った表現の事例 第10回：行事の中での表現遊びについて（年齢による発達や環境の違い） 第11回：表現遊びの指導案と情報機器の活用について 第12回：模擬保育と振り返り（グループ活動：仲間作り） 第13回：模擬保育と振り返り（グループ活動：音楽劇） 第14回：模擬保育と振り返り（グループ活動：発表に向けての練習） 第15回：模擬保育と振り返り（グループ活動の成果発表）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト 宮下恭子編著「運動あそび・表現あそび～指導法を身につける理論と事例～」大学図書出版、2018</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・幼稚園教育要領（平成29年3月31日 文部科学省告示） ・保育所保育指針（平成29年3月31日 厚生労働省告示） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月31日 内閣府・文部科学省・厚生労働省告示）</p>			
<p>学生に対する評価 ①試験（40%）…実技試験を実施 ②受講態度（30%） ③課題発表（30%）…表現のグループ発表</p>			

授業科目名： 小学校国語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木昌弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導方法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：小学校国語科の目標及び内容を踏まえて、実践的な国語科授業をデザインすることを目的とする。 到達目標：①小学校国語科における目標及び内容について学習指導要領の趣旨及び要点を踏まえて説明できる。②小学校国語科の具体的な教材を基にした学習指導案を構想することができる。			
授業の概要 本科目は、中学校・高等学校で国語の指導、小学校・中学校において校長等の実務経験のある教員による授業である。学習指導要領の趣旨及び要点を確認しながら、小学校国語科の目標及び内容について理解するとともに、小学校国語科の教材を用いて、読解に不可欠な知識を習得しながら、具体的に授業をデザインする。なお、授業においては、プレゼンテーション、グループワーク及びディスカッションを通して行う。			
授業計画 第1回：授業全体のオリエンテーション 第2回：学習指導要領の趣旨及び要点 1 学習指導要領の概要及び変遷 第3回：学習指導要領の趣旨及び要点 2 「主体的・対話的で深い学び」 第4回：小学校国語科の目標と内容 1 [思考力、判断力、表現力等] 「A 話すこと・聞くこと」の内容と指導（1）「話すこと」「聞くこと」の指導事項と学習過程 第5回：小学校国語科の目標と内容 2 [思考力、判断力、表現力等] 「A 話すこと・聞くこと」の内容と指導（2）「話すこと」「聞くこと」の言語活動例と授業の構想 第6回：小学校国語科の目標と内容 3 [思考力、判断力、表現力等] 「B 書くこと」の内容と指導（1）「書くこと」の指導事項と学習過程 第7回：小学校国語科の目標と内容 4 [思考力、判断力、表現力等] 「B 書くこと」の内容と指導（2）「書くこと」の言語活動例と授業の構想 第8回：小学校国語科の目標と内容 5 [思考力、判断力、表現力等] 「C 読むこと」の内容と指導（1）「読むこと」の指導事項と学習過程 第9回：小学校国語科の目標と内容 6 [思考力、判断力、表現力等] 「C 読むこと」の内容と指導（2）言語事項に基づく教材分析 第10回：小学校国語科の目標と内容 7 [思考力、判断力、表現力等] 「C 読むこと」の内容と指導（3）学習意欲を喚起する学習課題の設定 第11回：小学校国語科の目標と内容 8 [思考力、判断力、表現力等] 「C 読むこと」の内容と指導（4）対話的な学習活動による課題の解決及び交流 第12回 小学校国語科の目標と内容 9 [知識及び技能] 「伝統的な言語文化」及び「情報の扱い方」 第13回：小学校国語科の目標と内容 10 [知識及び技能] 言葉の特徴・使い方 第14回：小学校国語科の目標と内容 11 [知識及び技能] 書写指導の基本（硬筆、毛筆の基礎） 第15回：学びのリフレクション 授業の総括、課題レポートの作成 定期試験は実施しない。			
テキスト 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（文部科学省著）			
参考書・参考資料等 「メロスはなぜ少女に赤面するのか～『テキスト分析』でつくる文学の授業」（鈴木昌弘著、三省堂）			
学生に対する評価 （1）課題レポート（40%）（2）プレゼンテーション及び演習発表（40%） （3）授業への積極的な参画（20%）			

授業科目名： 小学校社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：呂光暁 担当形態：単独																
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）																	
施行規則に定める科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 社会																	
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、社会科の基本的性格を理解するとともに、社会科授業を研究及び開発するための構想力と実践力を身につける。具体的な到達目標は次の3点となる。①社会科の歴史の変遷、役割や意義を理解できるようになる。②小学校社会科の目標と内容構成に関する基礎知識を身につける。③社会科の教育理論を理解し、教材研究や授業実践に生かすことができるようになる。</p>																			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、主体的・協働的な学習を通して、教育課程の歴史の変遷を踏まえて、小学校社会科の位置づけ、役割や意義を確認し理解していく。また、学習指導要領や関連する文献資料を手掛かりとして、小学校社会科の内容構成及び特質について学習するとともに、典型的な社会科授業実践を通して、社会科教育の在り方について検討する。</p>																			
<p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション (小学校社会科の位置づけと役割)</td> <td>第9回：産業の学習①(産業学習の理論や考え方)</td> </tr> <tr> <td>第2回：初期社会科の特徴と意義 (基本理念,典型的な授業実践)</td> <td>第10回：産業の学習② (各種の産業学習の実践と課題)</td> </tr> <tr> <td>第3回：社会科の歴史的展開 (学習指導要領,教科書)</td> <td>第11回：歴史の学習①(歴史学習の理論や考え方)</td> </tr> <tr> <td>第4回：小学校社会科の基本構造 (地理的・歴史的・公民的分野)</td> <td>第12回：歴史の学習②(歴史学習の実践と課題)</td> </tr> <tr> <td>第5回：小学校社会科の内容構成の特徴 (統合,児童中心,同心円の拡大)</td> <td>第13回：政治の学習 (政治学習の理論や考え方と実践)</td> </tr> <tr> <td>第6回：身近な地域の学習①(地域学習の理論や考え方)</td> <td>第14回：国際理解学習 (国際理解学習の理論や考え方と実践)</td> </tr> <tr> <td>第7回：身近な地域の学習② (地域学習の実践と課題)</td> <td>第15回：小学校社会科における評価 (評価基準,方法,課題)</td> </tr> <tr> <td>第8回：国土の学習(国土学習の理論や考え方と実践)</td> <td>定期試験</td> </tr> </table>				第1回：オリエンテーション (小学校社会科の位置づけと役割)	第9回：産業の学習①(産業学習の理論や考え方)	第2回：初期社会科の特徴と意義 (基本理念,典型的な授業実践)	第10回：産業の学習② (各種の産業学習の実践と課題)	第3回：社会科の歴史的展開 (学習指導要領,教科書)	第11回：歴史の学習①(歴史学習の理論や考え方)	第4回：小学校社会科の基本構造 (地理的・歴史的・公民的分野)	第12回：歴史の学習②(歴史学習の実践と課題)	第5回：小学校社会科の内容構成の特徴 (統合,児童中心,同心円の拡大)	第13回：政治の学習 (政治学習の理論や考え方と実践)	第6回：身近な地域の学習①(地域学習の理論や考え方)	第14回：国際理解学習 (国際理解学習の理論や考え方と実践)	第7回：身近な地域の学習② (地域学習の実践と課題)	第15回：小学校社会科における評価 (評価基準,方法,課題)	第8回：国土の学習(国土学習の理論や考え方と実践)	定期試験
第1回：オリエンテーション (小学校社会科の位置づけと役割)	第9回：産業の学習①(産業学習の理論や考え方)																		
第2回：初期社会科の特徴と意義 (基本理念,典型的な授業実践)	第10回：産業の学習② (各種の産業学習の実践と課題)																		
第3回：社会科の歴史的展開 (学習指導要領,教科書)	第11回：歴史の学習①(歴史学習の理論や考え方)																		
第4回：小学校社会科の基本構造 (地理的・歴史的・公民的分野)	第12回：歴史の学習②(歴史学習の実践と課題)																		
第5回：小学校社会科の内容構成の特徴 (統合,児童中心,同心円の拡大)	第13回：政治の学習 (政治学習の理論や考え方と実践)																		
第6回：身近な地域の学習①(地域学習の理論や考え方)	第14回：国際理解学習 (国際理解学習の理論や考え方と実践)																		
第7回：身近な地域の学習② (地域学習の実践と課題)	第15回：小学校社会科における評価 (評価基準,方法,課題)																		
第8回：国土の学習(国土学習の理論や考え方と実践)	定期試験																		
<p>テキスト</p> <p>授業時にその都度指示し、必要な教材や資料は印刷し配布する。</p>																			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』</p>																			
<p>学生に対する評価</p> <p>ワークシートや課題等の提出物（40%）、定期試験の結果（60%）を総合して評価する。</p>																			

授業科目名： 小学校算数	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：志賀 琢 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>新学習指導要領を踏まえて、小学校算数科における目標及び内容についての基礎的・基本的な部分を理解することを目的とする。到達目標は次の通りである。</p> <p>①小学校算数科の目標・内容について、新学習指導要領の改訂の趣旨及び要点を理解する。</p> <p>②小学校算数科の各領域の指導内容におけるポイントについて理解する。</p> <p>③学習指導案を作成するにあたっての基本的事項について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は、新学習指導要領改訂の趣旨及び要点を踏まえて、小学校算数科における目標及び内容について基礎的・基本的な部分を理解するとともに、特に各領域の内容とその取扱いについて、グループワークやディスカッションを通して深く考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：新学習指導要領の改訂の趣旨と要点について</p> <p>第2回：新しい算数科における目標とその内容について</p> <p>第3回：各領域の指導内容とそのポイントについて「数と計算」①加法と減法の考え方</p> <p>第4回：各領域の指導内容とそのポイントについて「数と計算」②乗法と除法の考え方</p> <p>第5回：各領域の指導内容とそのポイントについて「数と計算」③小数の加減乗除</p> <p>第6回：各領域の指導内容とそのポイントについて「数と計算」④分数の加減乗除</p> <p>第7回：各領域の指導内容とそのポイントについて「図形」①平面図形</p> <p>第8回：各領域の指導内容とそのポイントについて「図形」②立体図形</p> <p>第9回：各領域の指導内容とそのポイントについて「測定」①測定と単位</p> <p>第10回：各領域の指導内容とそのポイントについて「変化と関係」①比例・反比例</p> <p>第11回：各領域の指導内容とそのポイントについて「変化と関係」②割合・比</p> <p>第12回：各領域の指導内容とそのポイントについて「データの活用」①データのまとめ方</p> <p>第13回：よりよい授業を行うための学習指導案作成の考え方①関心・意欲の高め方</p> <p>第14回：よりよい授業を行うための学習指導案作成の考え方②多様な考えの生かし方</p> <p>第15回：これまでの振り返りとまとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 「算数科教育の基礎・基本」改訂新版			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説算数編（文部科学省）			
学生に対する評価 定期テスト50% 発言内容・意欲20% 授業態度30%			

授業科目名： 小学校理科	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：内山哲治 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・理科		
授業のテーマ及び到達目標 小学校における理科教科（物理・化学・生物・地学）の確認と、その背景となる科学の基礎概念を理解し、幅広い視野に立った知識の修得を目的とする。			
授業の概要 小学校で押さえるべき理科教科（物理・化学・生物・地学）の内容を理解するためには、小学校の内容を大きく超えた中学校・高等学校の内容まで踏み込んだ理解が必要である。そこで、小学校理科で必要な知識を網羅した問題を解き、詳細な解説をすることによって、小学校理科の背景知識や基礎概念を修得する。			
授業計画 第1回：自然科学の中の小学校理科教科について 第2回：小学校理科（物理分野）光 第3回：小学校理科（物理分野）電気・磁石 第4回：小学校理科（物理分野）力 第5回：小学校理科（物理分野）エネルギー 第6回：小学校理科（地学分野）大地 第7回：小学校理科（地学分野）気象 第8回：小学校理科（地学分野）宇宙 第9回：小学校理科（地学分野）地球 第10回：小学校理科（化学分野）熱 第11回：小学校理科（化学分野）水溶液 第12回：小学校理科（化学分野）粒子 第13回：小学校理科（生物分野）植物 第14回：小学校理科（生物分野）動物 第15回：小学校理科（生物分野）生命 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 文部科学省 学習指導要領，解説【理科編】			
学生に対する評価 担当した問題の解答・解説（50%），レポート（40%），担当以外の問題への質問などの授業中の取り組み姿勢等（10%）			

授業科目名： 小学校生活	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：熊谷 和彦 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生活		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：生活科の理論と実際</p> <p>到達目標：①生活科の理念・意義を自分の言葉で説明できる。②生活科の目標及び内容について説明することができる。③生活科の授業を展開するために必要な知識や基礎的な技能を習得する。</p>			
<p>授業の概要 生活科は、教師が教え児童がそれを覚えるといった知識を中心とする教科ではない。児童が主体的に「ひと・もの・こと」に接して、自分との関わりについて考えていく、「直接体験」と「双方向の活動」が大切な教科なのである。本授業では、小学校で実践されている生活科の授業の実例も取り上げ、グループワークや情報通信技術を活用した体験学習を取り入れながら講義を進めていく。併せて、生活科の学習活動に有効な教材づくりも各自行う。また、グループワーク(協働)で行う活動では、発表やディスカッションを通じた相互評価を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(生活科の意義について理解する)</p> <p>第2回：生活科の教科目標及び学年目標(生活科の教科目標及び学年目標について理解する)</p> <p>第3回：生活科の内容構成(生活科の内容構成の9つの柱と基本的視点, 学習対象, 具体的視点, 内容の構成要素と階層性について話し合う)</p> <p>第4回：生活科の内容(1)～(3)の概説(「学校と生活」「家庭と生活」「地域と生活」について理解する)</p> <p>第5回：生活科の内容構成(4)～(6)の概説(「公共物や公共施設の利用」「季節の変化と生活」「自然や物を使った遊び」について理解する)</p> <p>第6回：生活科の内容構成(7)～(9)の概説(「動植物の飼育・栽培」「生活や出来事の交流」「自分の成長」について理解する)</p> <p>第7回：生活科の指導計画(生活科の指導計画の作成について理解する)</p> <p>第8回：生活科の単元構成及び単元づくり(単元構成作成について理解する)</p> <p>第9回：生活科の学習支援と評価(生活科の学習活動における指導・支援(含:情報通信技術活用), 評価の在り方について理解する)</p> <p>第10回：生活科の実際と教材について1(「見学・観察」活動に有効な教材づくりを行う, 情報通信技術の有効活用について話し合う)</p> <p>第11回：生活科の実際と教材について2(前時に作成した探検グッズを用いながら, 実際にキャンパスを探検し, 関わった「ひと, もの, こと」を絵地図に表す)</p> <p>第12回：表現活動1(キャンパス探検活動を劇化して表現する)</p> <p>第13回：表現活動2(前時に引き続いてキャンパス探検活動を表現する, 作成した人形等を使って発表に向けた練習をグループで行う)</p> <p>第14回：ポスターセッション(表現活動発表会, グループごとの発表を通じて自己評価や相互評価を行う)</p> <p>第15回：学びを振り返る(生活科における支援と評価のポイントについてレポート課題に取り組む)</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト 小学校学習指導要領解説(生活編):平成29年告示(文部科学省)			
参考書・参考資料等 生活科教科用図書「新しい生活」(東京書籍)			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業での適宜行う確認テストやレポート60%, まとめのレポート40%を基本に総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 小学校音楽	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：四家 昌博 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽		
授業のテーマ及び到達目標 ・教育の実践に必要な音楽に関する基礎的な知識や技能を身に付け、理解を深める。 ・楽典、ソルフェージュの基礎的な能力を身に付ける。			
授業の概要 小学校において音楽の授業を行ううえで必要となる基礎的な音楽の知識、楽典を学習する。西洋音楽の音名、階名、音程、音階、調性について学習し、移調や階名唱をできるようにする。また、和音とコードネームの基礎的な知識を学習し、平易な和声進行について学習する。小学校の音楽科の歌唱共通教材、リコーダー、和楽器等の基礎的な知識や技能を、歌唱やリコーダーの演奏、箏等の演奏などの実技や発表を交えながら体験的に学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、譜表と音名、音符・休符、歌唱共通教材の弾き歌い 第2回：音名、音符・休符、コードネーム、歌唱共通教材の弾き歌い 第3回：音名、コードネーム、音程、歌唱共通教材の弾き歌い、リコーダー 第4回：コードネーム、音程、拍子・リズム、歌唱共通教材の弾き歌い、リコーダー 第5回：音程、拍子・リズム、歌唱共通教材の弾き歌い、リコーダー 第6回：音階、調、歌唱共通教材の弾き歌い、リコーダー 第7回：音階、調、歌唱共通教材の弾き歌い、和楽器 第8回：音階、調、和音、歌唱共通教材の弾き歌い、和楽器 第9回：調（移調）、和音、歌唱共通教材の弾き歌い、和楽器 第10回：和音、コード進行、楽語、和楽器 第11回：器楽合奏・合唱①選曲と練習計画、音楽づくり①（低学年） 第12回：器楽合奏・合唱②読譜と実践、音楽づくり②（中、高学年） 第13回：器楽合奏・合唱③実践とまとめ 第14回：器楽合奏・合唱④実技発表 第15回：発表の振り返りとこれまでのまとめ 定期試験：筆記試験			
テキスト 音符と鍵盤でおぼえるわかりやすい楽典 音楽之友社 初等科音楽教育法 音楽之友社			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年告示 文部科学省） その他は授業中に適宜配付する。			
学生に対する評価 課題、発表（40%） 試験（60%）			

授業科目名： 小学校図画工作	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：千 凡晋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 図画工作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校での活用を念頭に置き、多様な画材・材料の探索、用具の扱い方などを学び、造形表現に関する応用力を高める。</li> <li>・ 様々な造形表現の技法を学び、子どもの造形活動を支える知識・技能を身につける。</li> <li>・ 自ら材料、技法、題材を選び、製作の計画を立てて進みながら、教育現場での具体的な支援や指導の手立てを見つけ、実践する力を養う。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>子どもが楽しく取り組める様々な表現技法を学び、それをを用いて製作を行うことで、小学校などで行われる造形活動を支える知識と技能を身につける。本授業では学生主導のアクティブラーニングを用い、製作活動を通して作り上げる楽しさと喜びを体験しながら教育現場での造形活動に関する支援や指導の方法を自ら発見し、応用的に実践することを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：立体表現の探索1「小麦粉粘土の製作」</p> <p>第3回：立体表現の探索2「リサイクル材による手作り楽器の製作」</p> <p>第4回：平面表現の探索1「日常用品（キッチン用スポンジ）を用いた表現」</p> <p>第5回：平面表現の探索2「野菜スタンプングなどの表現」</p> <p>第6回：平面・立体表現探索1「木材・針金などによる表現①」（構想・計画・準備）</p> <p>第7回：平面・立体表現探索2「木材・針金などによる表現②」（実践）</p> <p>第8回：造形遊びの探索「新聞紙を使った造形表現・遊び」</p> <p>第9回：平面表現探索「多色木版画①」（構想・計画・準備）</p> <p>第10回：平面表現探索「多色木版画②」（実践）</p> <p>第11回：自由制作1（構想・計画）</p> <p>第12回：自由制作2（製作・完成）</p> <p>第13回：自由製作の発表会1（低学年対象の製作について）</p> <p>第14回：自由製作の発表会2（中・高学年対象の製作について）</p> <p>第15回：振り返りと作品集の感想会</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト 使用しない。			
<p>参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説図画工作編(文部科学省)</p> <p>随時、材料と制作技法に関する資料を作成し、配布する。</p>			
<p>学生に対する評価 成果物（50%）、自由製作（20%）、課題（20%）、受講態度（10%）</p>			

授業科目名： 小学校家庭	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊東 智恵子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭		
授業のテーマ及び到達目標 小学校家庭科の特性を踏まえ、自己の生活をよりよく向上させる実践力を育む指導のあり方について追究する。学習指導に必要な知識と技能を習得し、教材の組み立てについて検討・分析ができることを到達目標とする。			
授業の概要 学習指導要領の内容を確認しながら、内容項目の関連性について理解し、教材・教具の扱い方を習得する。生活の営みに関する見方・考え方を深めさせる指導の工夫を通して、教材の効果的な取扱い方を学ぶ。			
授業計画 第1回： オリエンテーション：生活課題と家庭科の目標・内容構成について 第2回： 内容A「家族・家庭生活」：2年間の学びを通してみる家族・家庭生活 第3回： 内容A「家族・家庭生活」：生活の変化と子どもを取り巻く環境 第4回： 内容B「食生活」：授業における安全配慮 第5回： 内容B「食生活」：日常の食事と調理の基礎・調理器具の正しい扱い方 第6回： 内容B「食生活」：ご飯とみそ汁を通して考える生活文化の継承 第7回： 内容B「衣生活」：手縫いの基礎 第8回： 内容B「衣生活」：ミシン縫いの基礎 第9回： 内容B「衣生活」：手縫いやミシン縫いを活用した袋づくり①準備と展開 第10回： 内容B「衣生活」：手縫いやミシン縫いを活用した袋づくり②展開とまとめ 第11回： 内容B「衣生活」：衣服の働きと手入れの工夫 第12回： 内容B「住生活」：整理整頓と清掃の工夫 第13回： 内容B「住生活」：季節の変化に合わせた住まい方の工夫 第14回： 内容C「消費生活・環境」：持続可能な社会を目指す生活の工夫 第15回： 内容C「消費生活・環境」：生活の変化に対応する実践力を高める指導について 定期試験			
テキスト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編（文部科学省） 私たちの家庭科 5・6年		
参考書・参考資料	小学校家庭科 授業のヒント33		
学生に対する評価 ①課題レポート30% ②製作実技40% ③授業態度30%（学習カードへの記載や対話的活動、主体的な取り組み等を観察し評価する） ①②に関しては、ルーブリックに基づき評価する。 諸事情がある学生には個別に対応し、評価を行う。			

授業科目名： 小学校体育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仁藤喜久子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・教科（体育）における小学校学習指導要領ならびに解説に示された各学年の教育目標及び各運動領域の内容を理解する。 ・到達目標：①教育学の基本である、小学校学習指導要領に示される内容（体育や運動遊び領域）について理解する。②自己の身体能力や運動技術の向上を目指す。			
<b>授業の概要</b> ・身体運動及び運動遊びの基礎理論を深めるとともに、自信の身体能力や運動技術の向上を図る。また、幼児期及び児童期に体得すべき基礎的運動動作を習得し、運動遊びにおける安全教育及び安全管理についても学ぶ。さらに、自己の指導技術の向上だけでなく、グループ活動を通してコミュニケーション能力を高めていく。 ・アクティブラーニングとICT(manaba・respon)を活用した授業を実施する。 ・この科目は小学校での実務経験がある教員による授業である。			
<b>授業計画</b> 第1回：小学校学習指導要領（体育編）の概要説明と理解 第2回：児童の発達および今日的課題と体育科の役割 第3回：小学校体育科の目標と各運動領域の理解 第4回：水泳運動 第5回：雪上運動 第6回：体づくり運動 第7回：器械運動①マット運動 第8回：器械運動②鉄棒 第9回：器械運動③跳び箱 第10回：陸上運動 第11回：ボール運動 第12回：表現運動 第13回：体育科における評価方法と評価規準 第14回：体育科における授業の振り返りと授業改善の方法 第15回：教材と児童の実態をふまえた体育科指導のあり方 定期試験は実施しない。			
<b>テキスト</b> ・宮下恭子編著「運動あそび・表現あそび～指導法を身につける理論と実例～」大学図書出版、2018 ・文部科学省「小学校学習指導要領解説（体育編）」平成29年告示			
<b>参考書・参考資料等</b> ・文部科学省「小学校学習指導要領」平成29年告示			
<b>学生に対する評価</b> ①課題・レポート：50% ②模擬授業：30%      ③態度：20%			

授業科目名： 小学校英語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：遊佐重樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（英語）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景 的な知識を身につける。			
授業の概要 小学校における外国語活動・外国語科の授業を行うために必要な実践的な英語運用力を、授業場 面を意識しながら身につける。また、同時に、小・中学校の接続を踏まえた授業を担当できるよ う背景的な知識を習得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、小学校英語教育の変遷 第2回：英語の音声 第3回：発音と綴りの関係 第4回：英語の文構造・文法 第5回：英語の語彙 第6回：第二言語習得に関する基本的な知識 第7回：児童文学（絵本） 第8回：児童文学（子ども向けの歌や詩） 第9回：異文化理解 第10回：英語の書き方 第11回：英語コミュニケーション（聞くこと） 第12回：英語コミュニケーション（読むこと） 第13回：英語コミュニケーション（話すこと） 第14回：英語コミュニケーション（書くこと） 第15回：英語コミュニケーション（領域統合型の言語活動） 定期試験			
テキスト ・小学校英語 はじめる教科書 改訂版(吉田研作監修、小川隆夫・東仁美著、mpi松香フォニックス) ・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編(文部科学省、開隆堂出版) ・Let's Try! 1(文部科学省) ・Let's Try! 2(文部科学省) ・We Can! 1(文部科学省) ・We Can! 2(文部科学省)			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 毎時間の取り組み、レポートの提出状況(50%)、定期試験(50%)			

授業科目名： English Linguistics	教員の免許状取得のための 選択科目（小学校） 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名：遊佐重樹 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校及び中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（英語）（小学校） ・英語学（中学校 英語）		
授業のテーマ及び到達目標 英語を単なる一外国語としてではなく、文法現象、音韻論、音声学、英語の歴史、英語と人間・社会の関係など社会言語学からもアプローチして、科学的に理解することを試みる。これにより英語に関する知識が深まることに繋がり、将来教員として英語教育に生かせる語学に対する幅広い視点を養う。			
授業の概要 英語を単なる一外国語としてではなく、言語学的側面から学ぶ。言語学の各分野の基礎を学びながら、英語に関する知識を深める。			
授業計画 第1回：イントロダクション / ことばの働き 第2回：Put It in Writing / BerlinとKayの基本色名 第3回：Still More About Writing It Down / 英語の歴史 第4回：Passing the Cranberry Test / 英語の発音 第5回：Clusterings Beyond the Cranberries / 言語の壁を超える自動翻訳 第6回：Sentences Grow on Trees / チョムスキーの生成文法 第7回：A Middle Ground / 言語数の信頼性 第8回：How Many Languages Can Fit on a Planet? / エスペラント語 第9回：Nuclear English / Basic English / Received Pronunciation 容認発音 第10回：Multiple Meanings / 混合語ピジン・クリオール 第11回：Languages in Contact / 黒人英語 第12回：How Humans Learn Their Languages / 言語獲得期 第13回：The Birth of Language, The Growth and Death of Languages / 言語の起源説 第14回：Geographical and Diachronic Linguistics / 言語権 第15回：A Linguistic Bestiary / バイリンガル教育 定期試験			
テキスト What is Language? Invitation to Linguistics（成田一 蔦田和美著、三修社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 毎時間の取り組み、レポートの提出状況（50%）、定期試験（50%）			

授業科目名： 初等教科教育法(国語)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木昌弘 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導方法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：小学校国語科と背景となる学問領域との関係を理解し、目標及び内容を踏まえて、情報通信技術を活用した国語科授業をデザインし授業実践ができることを目的とする。</p> <p>到達目標：①小学校国語科における目標及び内容について学習指導要領の趣旨及び要点を踏まえて説明できる。</p> <p>②小学校国語科の具体的な教材を基にした学習指導案を作成することができる。</p> <p>③学習指導案に基づき模擬授業等の授業が実践できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は、中学校・高等学校で国語の指導、小学校・中学校において校長等の実務経験のある教員による授業である。学習指導要領の趣旨及び要点を確認しながら、小学校国語科の目標及び内容について理解するとともに、小学校国語科の教材（文学的文章及び説明的文章等）を用いて、読解に不可欠な知識を習得しながら、具体的に授業をデザインし、個人及びグループによって学習指導案を作成し、模擬授業を行うなどして実践的な授業力を育成する。なお、授業においては、プレゼンテーション、グループワーク及びディスカッションを通して行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業全体のオリエンテーション</p> <p>第2回：学習指導要領の趣旨及び要点1 学習指導要領の変遷</p> <p>第3回：学習指導要領の趣旨及び要点2 コンピテンシーベースの教育</p> <p>第4回：小学校国語科の目標構成 ー国語教育学研究の知見からー</p> <p>第5回：小学校国語科の内容構成 ー各学問領域との関係からー</p> <p>第6回：小学校国語科の授業デザイン ー研究実践の知見を踏まえてー</p> <p>第7回：学習指導案の作成1 説明的文章「イースター島にはなぜ森林がないのか」</p> <p>第8回：学習指導案の作成2 説明的文章「ビーバーの大工事」</p> <p>第9回：学習指導案の作成3 文学的文章「ごんぎつね」</p> <p>第10回：学習指導案の作成4 文学的文章「サーカスのライオン」</p> <p>第11回：学習指導案の作成5 文学的文章「一つの花」、書写指導</p> <p>第12回：情報通信技術を活用した模擬授業実践1（説明的文書）</p> <p>第13回：情報通信技術を活用した模擬授業実践2（文学的文章）</p> <p>第14回：情報通信技術を活用した模擬授業実践3（書写指導）</p> <p>第15回：学びのリフレクション 情報通信技術の活用を含む授業実践の総括、課題レポートの作成 定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>「メロスなぜ少女に赤面するのか～『テキスト分析』でつくる文学の授業」（鈴木昌弘著、三省堂）</p>			
<p>参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（文部科学省）</p>			
<p>学生に対する評価 (1)課題レポート(40%) (2)プレゼンテーション及び演習発表(40%) (3)授業への積極的な参画(20%)</p>			

授業科目名： 初等教科教育法（社会）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：呂光暁 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）	
施行規則に定める科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	
授業のテーマ及び到達目標 本授業は、初等社会科教育の性格及び背景となる各学問領域との関係を理解した上で、社会科授業を研究及び開発するための構想力と実践力を取得し、実際の授業づくりのスキルを身につけることを目指している。具体的な到達目標は次の3点となる。①小学校社会科の目標、役割、内容、評価に関する知識を理解できる。②小学校社会科の目標に応じて、各学問領域の研究知見を援用し教材研究を行い、学習指導案を作成できる。③学習指導案をもとに、学習者の実態を踏まえた上で、実際に授業を行うことができる。			
授業の概要 第1回から第4回までは、学習指導要領の解説や関連資料を通して、小学校社会科の基本的性格及び特色を学習する。第5回から第8回までは小学校社会科の教育内容を踏まえながら、各学問領域との関係に基づき、典型的な授業実践を手がかりに、小学校社会科における学習指導のあり方を理解し、習得する。第9回と第10回ではICTの活用など、社会科の学習指導及び評価に関する知識やスキルを学習し、模擬授業に向けての学習指導案づくりを行う。第11回から第15回までは、それぞれのテーマに基づいて模擬授業を実施し、その振り返り及び授業改善を行う。			
授業計画 第1回:ガイダンス(社会科の目標と公民としての資質・能力)      第9回:ICTを活用した学習指導と評価 第2回:小学校社会科のカリキュラム構造      第10回:授業づくりを進めるにあたっての留意 第3回:児童の発達と社会認識の形成      点(模擬授業の準備) 第4回:小学校社会科における主体的・対話的で深い学び      第11回:模擬授業①(地域学習) 第5回:地域学習の授業研究(地理学等の研究知見を踏まえて)      第12回:模擬授業②(産業学習) 第6回:産業学習の授業研究(経済学等の研究知見を踏まえて)      第13回:模擬授業③(歴史学習) 第7回:歴史学習の授業研究(歴史学等の研究知見を踏まえて)      第14回:模擬授業④(政治及び国際理解学習) 第8回:政治及び国際理解学習の授業研究(政治学等の研究      第15回:模擬授業の振り返り及び改善 知見を踏まえて)      定期試験			
テキスト 授業時にその都度指示し、必要な教材や資料は印刷し配布する。			
参考書・参考資料等 文部科学省、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』			
学生に対する評価 ワークシートや課題等の提出物（30%）、模擬授業（20%）、定期試験(社会科授業の在り方に関する理解や見解を考察する)の結果（50%）を総合して評価する。			

授業科目名：初等教科 教育法(算数)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：市川 啓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学校教員免許取得を目的とした授業科目である。小学校算数科の授業をするための基礎的な力をつけることを目的とし、小学校の算数科教育に関する目標・内容・方法及び背景となる各学問領域との関係について理解することを目標とする。			
授業の概要 小学校の算数科に関する学習指導について、教材研究と指導法の点から学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 算数教育の意義、目標 学習指導要領に基づく6年間の学習指導内容の概観 第2回：優れた算数科の授業とは 数学的活動と数学研究の視点から 第3回：教材と指導法の研究（1）数と計算 数 第4回：教材と指導法の研究（2）数と計算 加法と減法 第5回：教材と指導法の研究（3）数と計算 整数の乗法と除法 第6回：教材と指導法の研究（4）数と計算 小数・分数の乗法と除法 第7回：教材と指導法の研究（5）測定 第8回：教材と指導法の研究（6）変化と関係 関数の考え 第9回：教材と指導法の研究（7）変化と関係 単位量当たりの大きさと同種の量の割合 第10回：教材と指導法の研究（8）図形 図形の概念形成（算数科におけるICTの活用） 第11回：教材と指導法の研究（9）図形 求積 第12回：教材と指導法の研究（10）データの活用（算数科におけるICTの活用） 第13回：数科教育の実践研究の動向 数学研究の知見を取り入れた学習指導案の作成方法・評価 第14回：算数科の授業実践（模擬授業）と評価の実際 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編』			
参考書・参考資料等 算数教材研究 割合 市川啓/高橋丈夫/青山尚司/加藤希支男 編著（東洋館出版社）			
学生に対する評価 定期試験（70%）レポート（30%）を基本とし、授業中の学修の様子を加味して総合的に判断して評価する。			

授業科目名： 初等教科教育法（理科）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：内山哲治、中山 慎也 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小学校理科において，学習指導要領を読み解き，背景となる各学問領域との関係を理解した上で，模擬授業の実践を通して情報通信機器の利用・学習指導案の作成および授業作りが出来るようになることを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領に基づいた小学校の理科教科に必要な十分な知識と指導法を修得するために，同じ単元において模擬授業を2回（初回および改良回）行う。また，現職教員による提案授業・学習指導案などを読み解くことにより，情報通信機器の利活用等さまざまな指導技術を磨く。本授業は，学生の実践を重視する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小学校教科としての理科について（内山）</p> <p>第2回：小学校学習指導要領および解説【理科編】について（中山）</p> <p>第3回：学習指導案の作成方法，グループ分け（内山）</p> <p>第4回：科学史や科学理論の知見を生かした単元設定および学習指導案作成（情報通信機器利活用含）（内山）</p> <p>第5回：学習指導案作成（完成），授業および実験準備（情報通信機器利活用含）（内山）</p> <p>第6回：授業および実験の予行練習（情報通信機器利活用含）（内山）</p> <p>第7回：模擬授業（内容：3・4学年）（情報通信機器利活用含）と検討会（中山・内山）</p> <p>第8回：模擬授業（内容：5学年）（情報通信機器利活用含）と検討会（中山・内山）</p> <p>第9回：模擬授業（内容：6学年）（情報通信機器利活用含）と検討会（中山・内山）</p> <p>第10回：学習指導案の改訂および改良版模擬授業の準備（内山）</p> <p>第11回：改良版模擬授業の予行練習（内山）</p> <p>第12回：改良版模擬授業（内容：3・4学年）と検討会（中山・内山）</p> <p>第13回：改良版模擬授業（内容：5学年）と検討会（中山・内山）</p> <p>第14回：改良版模擬授業（内容：6学年）と検討会（中山・内山）</p> <p>第15回：まとめと振り返り(科学的探究を実践する理科教育の授業)（内山）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 使用しない			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校学習指導要領(平成29年告示 文部科学省)</p> <p>小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>最終レポートおよび学習指導案（50%），模擬授業の発表内容および質疑応答（50%）</p>			

授業科目名： 初等教科教育法(生活)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：熊谷 和彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：生活科の授業をつくる</p> <p>到達目標：①生活科の学習を構成する要素（子ども理解，支援，年間指導計画，単元構成環境構成，指導方法：含・情報通信機器活用，評価）及び背景となる各学問領域との関係について説明できる。②生活科の学習指導案を作成することができる。③作成した学習指導案を基に模擬授業を行い指導の在り方について討議できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生活科の教科目標は，人々や身近な社会・自然と関わり，自分自身をみつめ自立への基礎を養うことにある。学習活動では，遊びも学びの一つととらえる。低学年の子どもの発達の段階の特性を踏まえながら，子どもの目の高さに立ち，どのように指導をしていくかを学習指導案作りやグループワーク等を取り入れながら学んでいく。また，生活科の教科特性に即したタブレットなどのICT機器や学習支援ソフトなどの情報通信技術の活用について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：学習指導要領に基づく生活科の目標，内容等について</p> <p>第2回：子ども理解（発達と学習に関する研究知見を踏まえて）</p> <p>第3回：学習材開発と年間指導計画</p> <p>第4回：生活科の単元構成と学問的背景</p> <p>第5回：生活科の授業準備と環境構成（子どもの発達と学問領域の特質の両立）</p> <p>第6回：生活科の指導方法と支援・情報通信技術の効果的な活用</p> <p>第7回：生活科の学習指導案作成1 「わたしのおもちゃ」（学習指導案作成）</p> <p>第8回：生活科の学習指導案作成2 「わたしのおもちゃ」（グループでの学習指導案の検討）</p> <p>第9回：生活科の学習指導案作成3 「わたしのおもちゃ」（学習指導案の発表）</p> <p>第10回：生活科の学習指導案作成4 「わたしのおもちゃ」（模擬授業の準備）</p> <p>第11回：生活科の学習指導案作成5 「わたしのおもちゃ」（模擬授業と振り返り）</p> <p>第12回：生活科の学習指導案作成6 「こうえんたんけん」（学習指導案作成）</p> <p>第13回：生活科の学習指導案作成7 「こうえんたんけん」（模擬授業と振り返り）</p> <p>第14回：生活科の評価：生活科の評価の仕方について</p> <p>第15回：まとめ：生活科授業展開のポイントについて（レポート作成）（教科の専門性，子どもの発達，学問領域の特質）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編（文部科学省）			
参考書・参考資料等 生活科教科用図書「新しい生活」（東京書籍）			
<p>学生に対する評価</p> <p>・適宜行う確認テストや指導案50%，レポート50%を基本として総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 初等教科教育法（音楽）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：四家 昌博 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・小学校音楽科の目標及び内容を理解し、授業を組み立てる。 ・小学校音楽科における基礎的な知識、技能を身に付け、授業を行うことが出来る。			
授業の概要 小学校音楽科の目標と内容を理解し、音楽を指導できる基礎的な能力を身に付けるために、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の内容について、演習を取り入れながら授業を行う。歌ったり、楽器を演奏したり、音楽を聴いたりする体験的活動や、情報機器の活用、指導計画の立案、模擬授業等を通して、また背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究や指導の方法について理解を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 学習指導要領について 音楽科のねらい 第2回：小学校音楽科の目標、内容について 情報機器の活用について 第3回：歌唱の活動① 発声と指導法 第4回：歌唱の活動② 合唱と指揮、小学校音楽科と音楽学(楽器演奏、声楽、作曲)との関係 第5回：歌唱の活動③ 歌唱共通教材、小学校音楽科と音楽学(音楽理論、音楽史)との関係 第6回：歌唱の活動④ 歌唱共通教材、グループ発表、実技試験（歌唱） 第7回：器楽の活動① 鍵盤ハーモニカ、リコーダー、和楽器 第8回：器楽の活動② 器楽合奏、指揮 第9回：器楽の活動③ 器楽合奏、グループ発表、実技試験（器楽） 第10回：音楽作りの活動 第11回：鑑賞の活動 世界の音楽、日本の音楽 第12回：授業計画、指導案作成、模擬授業について 第13回：模擬授業① 歌唱、器楽 第14回：模擬授業② 鑑賞、音楽づくり 第15回：模擬授業③ 振り返りとまとめ、背景となる学問領域や他教科との関係について 定期試験			
テキスト 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 （文部科学省） 初等科音楽教育法 音楽之友社			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 定期試験（50%）、実技試験（30%）、模擬授業およびレポート（20%）			

授業科目名：初等教科 教育法（図画工作）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：千凡晋 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める科目区分又は 事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校図画工作科の目標と内容、及び教育法と評価について確認するとともに、学年間の発展的な展開について理解する。</li> <li>・図画工作科の教科特性及び子どもの体験との関連を考慮した情報通信技術の活用法を理解し、授業構想に活用することができる。</li> <li>・教科書の分析や教材研究を通して図画工作科の性格を捉え、授業設計と授業づくりする発想力と実践力を養う。</li> <li>・子どもの発達特性を踏まえながら、学習指導案を作成し、その実践と振り返りを通して授業改善の視点を培う。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>小学校の図画工作科における基礎となる理論かつ実践的な知識を学び、小学校で使われている材料と用具（情報通信技術の活用を含む）を用いて様々な表現方法を体験することで、指導方法や指導上の留意点などを身につける。現行の学習指導要領に基づき、図画工作科の目標と内容、指導法と評価について理解を深めながら、教科書分析と具体的な事例研究を通して自ら授業を構想し、指導する方法を習得する。子どもの発達特性を考慮しながら、構想した模擬授業を通して指導案の作成や教育現場での援助と指導法について学ぶ。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：オリエンテーション、図画工作科教育の位置づけ（図画工作科教育の意義と目的）  第2回：子どもの造形表現の特性（造形表現の発達論・子どもの描画の特徴・発達の個人差）  第3回：図画工作科教育の歩み（小学校における造形教育史・造形教育の思潮と新たな動向）  第4回：学習指導要領「図画工作科」（図画工作科の目標と内容）  第5回：図画工作科の指導の理念と方法（教材と題材・評価の観点と方法・教科書の使い方）  第6回：指導計画の作成（指導計画作成の手順・指導案作成の方法）  第7回：事例探索「絵や立体の活動」（目標の理解・指導方法・指導上の留意点・評価方法）及び教科書の分析  第8回：事例探索「工作の活動」（目標の理解・指導方法・指導上の留意点・評価方法）及び教科書の分析  第9回：事例探索「造形遊びの活動」（目標の理解・指導方法・指導上の留意点・評価方法）及び教科書の分析  第10回：事例探索「鑑賞の活動」（目標の理解・指導方法・指導上の留意点・評価方法）及び教科書の分析  第11回：授業実践研究①（グループワーク：対象・題材の設定・授業設計）  第12回：授業実践研究②（グループワーク：指導案の作成・教材見本の制作）  第13回：模擬授業①（低・中学年用の題材の発表・反省と改善の検討）  第14回：模擬授業②（高学年用の題材の発表・反省と改善の検討）  第15回：図画工作指導法の振り返りとまとめ  定期試験は実施しない。</p>			
<b>テキスト</b> <p>『子どもの資質・能力を育む図画工作科教育法』新野貴則・福岡知子編 萌文書林 2019年</p>			
<b>参考書・参考資料等</b> <p>『小学校学習指導要領』文部科学省、平成29年3月告示  『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省、日本文教出版、2018  『令和2年度版小学校教科書「図画工作」』日本造形教育研究会、開隆堂  『令和2年度版小学校教科書「図画工作」』日本児童美術研究会、日本文教出版</p>			
<b>学生に対する評価</b> <p>提出物（30%）、授業実践研究発表（個人・グループ）と模擬授業（60%）、受講態度（10%）</p>			

授業科目名： 初等教科教育法(家庭)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤郷美・宮下ひろみ
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校家庭科の目標を踏まえ、学習指導に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を理解し、家庭科の授業づくりに関する実践的指導力の向上を目指すものとする。 ① 小学校家庭科の特質を踏まえ、教育内容について理解する。 ② 家庭科の授業に関する教材解釈、教材研究を理解する。 ③ 家庭科の授業展開に関する指導技術を身に付ける。（指導案、模擬授業等）			
授業の概要 小学校家庭科の学習が子どもの成長に対し寄与できることが何かを追究する。子どもの生活実態や生活課題に根ざした教材の開発や学習指導の在り方とともに、指導計画を立てる際に必要な基礎的基本的な知識の理解、技術の習得、学習指導案の作成を目指す。受講生が小学校家庭科の学習指導場面を想起できるように、教育実践事例、教育研究の蓄積等から授業を進める。			
授業計画 第1回:オリエンテーション・小学校家庭科の意義、目標と内容(佐藤・宮下) 第2回:小学校家庭科の指導計画と内容の取扱い、ICT活用、実習の指導、評価(佐藤) 第3回:学習指導案の作成に関して学ぶ～「A家族・家庭生活」に関する指導①家族(佐藤) 第4回:学習指導案の作成に関して学ぶ～「A家族・家庭生活」に関する指導②家庭生活(佐藤) 第5回:「B衣食住の生活」に関する指導とICT活用①～住生活に関する教材分析、授業展開を考える(佐藤) 第6回:「B衣食住の生活」に関する指導とICT活用②～教材分析、授業展開(防災や減災の視点)(佐藤) 第7回:「B衣食住の生活」に関する指導とICT活用:小物づくり①～ボタン付け、手縫いの基礎(佐藤) 第8回:「B衣食住の生活」に関する指導とICT活用:小物づくり②～ミシン縫い(佐藤) 第9回:「C消費生活・環境」に関する指導①:教材分析、ICT活用、授業展開、学習指導案を作成する(佐藤) 第10回:「C消費生活・環境」に関する指導②:模擬授業、指導方法のアクティブラーニングを行う(佐藤) 第11回:模擬授業①学習指導案に基づき模擬授業を行う。アクティブラーニングで改善点を検討(佐藤・宮下) 第12回:模擬授業②模擬授業を行い、アクティブラーニングで改善点を検討する。まとめのテスト(佐藤・宮下) 第13回:食領域に関する学習とICT活用1食事の役割と調理の基礎(1)ご飯とみそ汁の調理の基礎を理解する(宮下) 第14回:食領域に関する学習とICT活用2食事の役割と調理の基礎(2)手順と衛生と安全を考えた調理ができる、指導案を作成することができる(宮下) 第15回:食領域に関する学習とICT活用3栄養と食品の組み合わせを考えた調理の指導:食品の栄養的な特徴を理解する(宮下) 定期試験は実施しない。			
テキスト わたしたちの家庭科5/6年(開隆堂)			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編(文部科学省)			
学生に対する評価 (1)実習・演習(40%) (2)受講態度(20%) (3)まとめのテスト、課題レポート、ワークシート等(40%)			

授業科目名：初等教科 教育法（体育）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仁藤喜久子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領ならびに解説に示された各学年の教育目標及び各運動領域の内容を理解し、体育科における各学年の発達や特性に応じた教科体育の指導ができるようになる。</li> <li>・到達目標①小学校学習指導要領ならびに解説に示された各学年の教育目標及び各運動領域の内容を理解する。②学習指導案を作成することをとおして、体育科の指導方法ならびに個に応じた指導方法を理解する。③作成した学習指導案にもとづく模擬授業により、体育科における個の発達や特性に応じた指導方法を身につける。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科における指導上の課題ならびに児童一人一人に応じた指導のあり方を考え、小学校学習指導要領体育編に示されている各学年の目標や主要な運動領域の内容を取り上げ、実際の学習指導案づくりをとおして体育科の指導方法を学ぶ。また、実際の模擬授業をとおして、学習指導上のポイントや個に応じた指導のあり方を理解する。</li> <li>・アクティブラーニングとICTを活用した授業を実施する。</li> <li>・この科目は小学校での実務経験がある教員による授業である。</li> </ul>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小学校学習指導要領（体育編）の概要説明と理解  第2回：児童の発達および今日的課題と体育科の役割  第3回：小学校体育科の目標と各運動領域の理解  第4回：体育科における指導方法と指導上の課題（水泳・雪上運動）  第5回：体育科における教材研究の方法－実践事例をもとに－（水泳・雪上運動）  第6回：表現運動の指導法－学習指導計画と学習指導案－  第7回：器械運動と体づくり運動の指導法－学習指導案の作成と教材研究－  第8回：ボール運動の指導法－学習指導案の作成と教材研究－  第9回：陸上運動の指導法－学習指導案の作成と教材研究－  第10回：表現運動に関する模擬授業の実践－学習指導案の実践と改善－  第11回：器械運動・体づくり運動に関する模擬授業の実践－学習指導案の実践と改善－  第12回：ボール運動に関する模擬授業の実践－学習指導案の実践と改善－  第13回：体育科における評価方法と評価規準  第14回：体育科における授業の振り返りと授業改善の方法  第15回：教材と児童の実態をふまえて、ICTを活用した体育科指導のあり方</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮下恭子編著「運動あそび・表現あそび～指導法を身につける理論と実例～」大学図書出版、2018</li> <li>・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」</li> </ul>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『小学校学習指導要領』平成29年告示</li> </ul>			
<p>学生に対する評価</p> <p>①課題・レポート：50%      ②模擬授業：30%      ③態度：20%</p>			

授業科目名： 初等教科教育法（英語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：遊佐重樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校における外国語活動（中学年）、および外国語（高学年）について、学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身につける。			
授業の概要 小学校での外国語教育に係る背景知識や主教材、ならびに小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、さらに多様な指導環境について理解する。同時に授業づくりに必要な知識・技術と授業実践に必要な指導技術を身につける。			
授業計画 第1回：イントロダクション、学習指導要領に見る外国語活動と外国語 第2回：外国語活動から外国語科への接続、小・中の連携と小学校の役割 第3回：児童や学校の多様性への対応 第4回：言語使用を通じた言語習得・音声によるインプット 第5回：コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動 第6回：音声から文字へ、ことばへの気づきをもたらす指導 第7回：国語教育との連携 第8回：Classroom English, Small Talk, Teacher Talk 教室英語とスモールトーク 第9回：文字言語との出会わせ方、読む活動から書く活動への導き方 第10回：題材の選定と教材 第11回：学習到達目標、指導計画（カリキュラム・マネジメント） 第12回：学習指導案の作り方 第13回：ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方、模擬授業 第14回：ICT等の活用の仕方、模擬授業 第15回：学習状況の評価（パフォーマンス評価）、模擬授業 定期試験			
テキスト ・小学校英語 はじめる教科書 改訂版（吉田研作監修、小川隆夫・東仁美著、mpi松香フォニックス） ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編（文部科学省、開隆堂出版） ・Let's Try! 1（文部科学省） ・Let's Try! 2（文部科学省） ・We Can! 1（文部科学省） ・We Can! 2（文部科学省）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 毎時間の取り組み、模擬授業（50%）、定期試験（50%）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：遊佐重樹
English Pronunciation	必修科目	2単位	担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 英語の音声の仕組みを習得すると同時に、英語を正確に発音し、聴き取る能力を身につけることを目標とする。さらに、英語の音声の歴史的な変遷、および国際共通語としての英語の実態についても理解を深めることを目標とする。			
授業の概要 マルチメディア教材を活用して、IPA（国際音声記号）を使いながら英語の音声の仕組みを習得し、日本語に存在しない英語の音を徹底的に身につけ、それらを正確に聴き取る力を養う。さらに、平易な会話文・スピーチ文を使って、発音練習を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：子音（1）閉止音（両唇、歯茎、軟口蓋）、会話文“The Homestay Guest Arrives”の発音練習 第3回：子音（2）側音（歯茎）、反転音（歯茎）、会話文“Driving”の発音練習 第4回：子音（3）摩擦音（歯茎、歯間）、会話文の“New Neighbors”の発音練習 第5回：子音（4）摩擦音（唇歯）、会話文“Junk Mail”の発音練習 第6回：子音（5）摩擦音（歯茎硬口蓋）破擦音（歯茎硬口蓋）、会話文“The Party”の発音練習 第7回：子音（6）鼻音（両唇、歯茎、軟口蓋）、会話文“Studying for Examinations”の発音練習 第8回：子音（7）摩擦音（声門）、半母音（両唇、歯茎硬口蓋）、会話文“The Writer”の発音練習 第9回：英語の音声の歴史的変遷、及び英語の歴史的変遷について 第10回：母音（1）低母音（前、中央、後）、中母音（中央）、スピーチ文“Drinking”の発音練習 第11回：母音（2）高母音（前）、スピーチ文“Public Speaking Tips”の発音練習 第12回：母音（3）高母音（後）、スピーチ文“What’s Your Blood Type?”の発音練習 第13回：母音（4）中母音（前）、スピーチ文“What’s in a Name?”の発音練習 第14回：母音（5）中母音（後）、スピーチ文“Valentine’s Day Memories”の発音練習 第15回：国際共通語としての英語の実態について 定期試験			
テキスト Sounds Right! Sounds Good!（村川久子著、マクミランランゲージハウス）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 毎時間の取り組み（40%）、定期試験（個々の音、会話文、スピーチ文）（60%）			

授業科目名： English Grammar	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：砂澤健治 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英文法を基礎から体系的に学ぶことにより、英語の運用能力・実践的なコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。英語の各種検定試験のほか、旅行や仕事で必要となる英語スキルの向上を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英文法の基礎事項について、毎回、チェック・テスト・解答（解説）を繰り返しながら、アクティブラーニングを通して理解を深める。伝統文法・学校文法を中心に扱うが、国際語という観点から、現代の英米語法の相違等についても取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：伝統文法と英語の歴史的変遷について</p> <p>第2回：基本五文型と統語的発達について</p> <p>第3回：Simple Present Tense（現在時制）</p> <p>第4回：Simple Past Tense（過去時制）</p> <p>第5回：Pronoun（代名詞）</p> <p>第6回：Modals（助動詞）</p> <p>第7回：Simple Future Tense（未来時制）</p> <p>第8回：Question Words &amp; Tag Question（疑問文と付加疑問文）</p> <p>第9回：Comparatives（比較）</p> <p>第10回：Infinitives（不定詞）</p> <p>第11回：Gerunds（動名詞）</p> <p>第12回：Passive Voice（受動態）</p> <p>第13回：Present Perfect（現在完了形）</p> <p>第14回：Clauses（名詞節・副詞節・形容詞節）</p> <p>第15回：英米語法の相違（法助動詞の用法上の変化・変遷等）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>Grammar Plus: 15 Unit Edition（南雲堂）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『大学生のための英文法ビフォー &amp; アフター』豊永彰著（南雲堂）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>(1) 平常点（50%）… 受講態度、毎回行う小テストへの取り組み。</p> <p>(2) 期末レポート（50%）… 教科書の内容に基づいた課題レポートの提出。</p>			

授業科目名： イギリスの文学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：熊谷治子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 英語で書かれたイギリス文学の歴史的な流れが理解できる。</p> <p>② 実際に作品を読み、英語の表現が理解できる。</p> <p>③ 作品および作品を取り巻く背景への理解をふまえ、作品に対する自分なりの見解を述べる ことができる。</p>			
授業の概要			
英語文学を代表する作品の文学史的な位置を知り、実際に作品を読んで英語表現を理解する力を養う。作者の生涯や作品の文化的背景について学び、広い文化的視野から作品理解を深めることを目指す。			
授業計画			
第1回: ガイダンス イギリス文学の流れ(対象作品の文学史的な位置づけ)			
第2回: ウィリアム・シェイクスピア『マクベス』の時代背景・作品概要および作者について			
第3回: ウィリアム・シェイクスピア『マクベス』の名場面の作品分析と考察			
第4回: ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』の時代背景・作品概要および作者について			
第5回: ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』の名場面の作品分析と考察			
第6回: チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』の時代背景・作品概要および作者について			
第7回: チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』の名場面の作品分析と考察			
第8回: ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』の時代背景・作品概要および作者について			
第9回: ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』の名場面の作品分析と考察			
第10回: コナン・ドイル『シャーロック・ホームズの事件簿』の時代背景・作品概要および作者について			
第11回: コナン・ドイル『シャーロック・ホームズの事件簿』の名場面の作品分析と考察			
第12回: T.S.エリオット『荒地』の時代背景・作品概要および作者について			
第13回: T.S.エリオット『荒地』の名場面の作品分析と考察			
第14回: T.S.エリオット『四つの四重奏』の名場面の作品分析と考察			
第15回: イギリスの文学を学ぶ意味と意義に関する考察と補足			
定期試験			
テキスト テキストは使用せず、プリント等を用いる。			
参考書・参考資料等			
『はじめて学ぶイギリス文学史』 神山妙子編 ミネルヴァ書房(1989)			
『イギリス文学の流れ』 相島倫嘉 南雲堂 (1994)			
『英語文学辞典』 木下卓他編 ミネルヴァ書房(2007)			
学生に対する評価			
1. 平常点(40%)・・・グループ・ディスカッションにおける発言等の授業態度			
2. レポート及び筆記試験(60%)			

授業科目名： アメリカの文学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山田 恵 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業の到達目標及びテーマ 歴史・思潮・文化の中でアメリカ文学（植民地時代ならびに独立後に英語で書かれた小説）の特徴を理解するとともに、時代・思潮ごとの代表的な作品の英語表現を理解し、鑑賞する力を養う。			
授業の概要 植民地時代以降現代までにアメリカで英語で書かれた小説の変遷を振り返るとともに、代表的な作品の一部を原文で読み、その英語表現を理解し、鑑賞する力を養う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、アメリカ文学の特徴と時代区分 第2回：植民地以前の文学：ネイティブ・アメリカンの口承文学について 第3回：植民地時代の旅行記、説教：ジョン・スミス、ジョン・ウインスロップ等 第4回：第一次覚醒運動と建国理念：ジョナサン・エドワーズ、ベンジャミン・フランクリン 等 第5回：アメリカ小説の登場：ウィリアム・ヒル・ブラウンとスザンナ・ハウエル・ローソン 第6回：アメリカン・ゴシック小説：チャールズ・ブロックデン・ブラウン 第7回：ニッカーボッカー派：ジェイムズ・フェニモア・クーパー 第8回：アメリカン・ルネッサンス：ポー、ホーソン、メルヴィル 第9回：19世紀の女性作家：ストウ、ジェイコブス、オルコット 第10回：地方主義小説の登場：ニューイングランド・南部・西部（カリフォルニア）・中西部の作家と作品 第11回：アメリカン・リアリズムの確立：マーク・トウェイン、ヘンリー・ジェイムズ 第12回：失われた時代の作家と作品：ヘミングウェイ、フィッツジェラルド 第13回：ユダヤ系作家と作品：フィリップ・ロス、エリカ・ジョング 第14回：アフリカ系作家と作品：ゾラ・ニール・ハーストン、リチャード・ライト、ラルフ・エリスン 第15回：アジア系作家と作品：ヒサエ・ヤマモト、マキシム・ホン・キングストン、エイミー・タン 定期試験			
テキスト テキストは指定せず、パワーポイントならびにプリントを主に用いる。			
参考書・参考資料等 盛岡裕一／片淵悦久 共編『新世紀アメリカ文学史』英宝社（2007） Kenji Inoue『An Outline of American Literature』南雲堂（2004）、他			
学生に対する評価 (1) 平常点(50%)・・・毎時間の取り組みならびに4回予定されている小レポートの提出状況 (2) 定期試験(50%)			

授業科目名： 英作文 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：坂場寛子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 日本文を英訳する練習を積み重ねて、英文の基本的構造を理解できる。</p> <p>2) 様々な目的や場面に応じて、自分の意見や考えを、センテンス単位そしてパラグラフ単位の英文を書くことにより読み手に伝えることができる。</p>			
授業の概要			
<p>短い日本文を英訳する練習を積み重ねて、英文の基本的構造を理解し、日本語的発想の英作文から抜け出して、自然な英文を書けるようになることを目標とする。学生が日常使う日本語表現を英語ではどのように表現するのかを、多くの文例に従って、自分の英語で書く練習をさせて、英作文に慣れ親しみ、自分の思っている事を簡潔平明な英語で自由に表現できるようにする。トピックスは学生たちの生活場面に則した事柄を取り上げ、段階的にステップを踏ませながら目標到達へと導いていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：Unit 1 Self-Introduction（練習問題、ペアワーク）</p> <p>第3回：Unit 1 Self-Introduction（英作文、発表）</p> <p>第4回：Unit 2 My Family, My Friends（練習問題、ペアワーク）</p> <p>第5回：Unit 2 My Family, My Friends（英作文、発表）</p> <p>第6回：Unit 3 My Room（練習問題、ペアワーク）</p> <p>第7回：Unit 3 My Room（英作文、発表）</p> <p>第8回：Unit 4 Everyday Activities（練習問題、ペアワーク）</p> <p>第9回：Unit 4 Everyday Activities（英作文、発表）</p> <p>第10回：Unit 5 Recipes（練習問題、ペアワーク）</p> <p>第11回：Unit 5 Recipes（英作文、発表）</p> <p>第12回：Unit 7 Asking Questions（練習問題、ペアワーク）</p> <p>第13回：Unit 7 Asking Questions（英作文、発表）</p> <p>第14回：Unit 8 Diary（練習問題、ペアワーク）</p> <p>第15回：Unit 8 Diary（英作文、発表）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			
New English Composition Workbook（金星堂）			
参考書・参考資料等			
英和・和英辞典、授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
(1) 課題及び発表等 50% (2) 定期試験 50%			

授業科目名： 英作文Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：坂場寛子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 1) 日本文を英訳する練習を積み重ねて、英文の基本的構造を理解できる。 2) 様々な目的や場面に応じて、自分の意見や考えを、センテンス単位そしてパラグラフ単位の英文を書くことにより読み手に伝えることができる。			
授業の概要 英作文Iに引き続いて、短い日本文を英訳する練習を積み重ねて、英文の基本的構造を理解し、日本語的発想の英作文から抜け出して、自然な英文を書けるようになることを目標とする。学生が日常使う日本語表現を英語ではどのように表現するのかを、多くの文例に従って、自分の英語で書く練習をさせて、英作文に慣れ親しみ、自分の思っている事を簡潔平明な英語で自由に表現できるようにする。トピックスは学生たちの生活場面に則した事柄を取り上げ、段階的にステップを踏ませながら目標到達へと導いていく。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：Unit 9 Making a Reservation（練習問題、ペアワーク） 第3回：Unit 9 Making a Reservation（英作文、発表） 第4回：Unit 10 Writing a Postcard（練習問題、ペアワーク） 第5回：Unit 10 Writing a Postcard（英作文、発表） 第6回：Unit 11 Job-Hunting（練習問題、ペアワーク） 第7回：Unit 11 Job-Hunting（英作文、発表） 第8回：Unit 12 Writing a Letter（練習問題、ペアワーク） 第9回：Unit 12 Writing a Letter（英作文、発表） 第10回：Unit 13 Giving Advice（練習問題、ペアワーク） 第11回：Unit 13 Giving Advice（英作文、発表） 第12回：Unit 14 Invitation（練習問題、ペアワーク） 第13回：Unit 14 Invitation（英作文、発表） 第14回：Unit 15 Notice（練習問題、ペアワーク） 第15回：Unit 15 Notice（英作文、発表） 定期試験			
テキスト New English Composition Workbook（金星堂）			
参考書・参考資料等 英和・和英辞典、授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 （1）課題及び発表等 50%（2）定期試験 50%			

授業科目名： 英文講読 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：坂場寛子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 英語圏の文化・社会事情に関する平易な英文を読み、パラグラフ単位の内容を正確に理解することができる。</p> <p>2) 意味のまとまりを捉え、センテンス単位の内容を正確に理解することができる。</p> <p>3) 音読を通して、英語音声の仕組みを理解する。</p>			
授業の概要			
英語圏の文化・社会事情を扱った平易な英文を読むことにより、英語の基礎的な読解力を養うことを目的とする。目的を達成するために、英文の精読を通して、パラグラフ単位の英文の内容を正確に理解する力を伸ばす。テキスト本文の英文講読や練習問題の解答・解説等、双方向型の授業を行う。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader（ウォームアップ、英文解釈）			
第3回：Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader（英文解釈、練習問題）			
第4回：Unit 2 A Cool Response to Food Waste（ウォームアップ、英文解釈）			
第5回：Unit 2 A Cool Response to Food Waste（英文解釈、練習問題）			
第6回：Unit 3 Haiku – Having Fun with Words and Ideas（ウォームアップ、英文解釈）			
第7回：Unit 3 Haiku – Having Fun with Words and Ideas（英文解釈、練習問題）			
第8回：Unit 4 Could Your Face Cost You Your Privacy?（ウォームアップ、英文解釈）			
第9回：Unit 4 Could Your Face Cost You Your Privacy?（英文解釈、練習問題）			
第10回：Unit 5 Russia’s City of the East（ウォームアップ、英文解釈）			
第11回：Unit 5 Russia’s City of the East（英文解釈、練習問題）			
第12回：Unit 6 The Healing Power of Music（ウォームアップ、英文解釈）			
第13回：Unit 6 The Healing Power of Music（英文解釈、練習問題）			
第14回：Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat（ウォームアップ、英文解釈）			
第15回：Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat（英文解釈、練習問題）			
定期試験			
テキスト			
Pleasure in Reading Aloud and Retelling（金星堂）			
参考書・参考資料等			
英和・和英辞典、授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
（1）小テスト及び発表等 50%（2）定期試験 50%			

授業科目名： 英文講読Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：坂場寛子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 英語圏の文化・社会事情に関する平易な英文を読み、パラグラフ単位の内容を正確に理解することができる。</p> <p>2) 意味のまとまりを捉え、センテンス単位の内容を正確に理解することができる。</p> <p>3) 音読を通して、英語音声の仕組みを理解する。</p>			
授業の概要			
<p>英文講読Ⅰに引き続いて、英語の読解力を養い、高めることを目的とする。目的を達成するために、英語圏の社会事情、特に現代事象に関する英文（新聞記事等）を読む。まず一読してフレーム(枠)を頭の中に作り、細部に情報を埋め込む作業を通じて、効果的に読解力を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回: イントロダクション</p> <p>第2回: Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems (ウォームアップ、英文解釈)</p> <p>第3回: Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems (英文解釈、練習問題)</p> <p>第4回: Unit 9 Currying Favor in Britain and Japan (ウォームアップ、英文解釈)</p> <p>第5回: Unit 9 Currying Favor in Britain and Japan (英文解釈、練習問題)</p> <p>第6回: Unit 10 Interacting with Others in a Globalized World (ウォームアップ、英文解釈)</p> <p>第7回: Unit 10 Interacting with Others in a Globalized World (英文解釈、練習問題)</p> <p>第8回: Unit 11 The Tragedy of Rana Plaza (ウォームアップ、英文解釈)</p> <p>第9回: Unit 11 The Tragedy of Rana Plaza (英文解釈、練習問題)</p> <p>第10回: Unit 12 The Age of Innocence (ウォームアップ、英文解釈)</p> <p>第11回: Unit 12 The Age of Innocence (英文解釈、練習問題)</p> <p>第12回: Unit 13 Kiribati: A Paradise on Earth – But for How Much Longer? (ウォームアップ、英文解釈)</p> <p>第13回: Unit 13 Kiribati: A Paradise on Earth – But for How Much Longer? (英文解釈、練習問題)</p> <p>第14回: Unit 14 Two Great Painters...and a Stormy Friendship (ウォームアップ、英文解釈)</p> <p>第15回: Unit 14 Two Great Painters...and a Stormy Friendship (英文解釈、練習問題)</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			
Pleasure in Reading Aloud and Retelling (金星堂)			
参考書・参考資料等			
英和・和英辞典、授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
(1) 小テスト及び発表等 50% (2) 定期試験 50%			

授業科目名： 英会話 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：ハットフィー ルド スティーヴン 遊佐重樹
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 リスニング、ライティング、スピーキングなどの活動を通して、英語で自信を持って流暢に話すことができるようにする。さらに、英語発音および語彙力増強を図る。			
授業の概要 スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング能力の向上に焦点を当てる。各ユニットのタイトルから内容を予測して授業に臨む。授業では教員から新しい単語や概念を紹介する。暗唱、討論、個人やグループによるプレゼンテーションなどを行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（なぜ児童書を通して英語を学ぶのか）（遊佐・ハットフィールド） 第2回：「Eugene's March 紹介」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐） 第3回：「農家に感謝している？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐） 第4回：「パレードに参加したことある？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐） 第5回：「Thunder and Rain Are Friends 紹介」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐） 第6回：「子どもの頃に怖かったものは？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐） 第7回：「The Boo-Boo Bulldozer 紹介」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐） 第8回：「表紙で本を判断できる？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（ハットフィールド） 第9回：「いじめ」トピックのリスニング、講読、確認、討論（ハットフィールド） 第10回：「The Wagamama Pasta Restaurant 紹介」トピックのリスニング、講読、確認、討論（ハットフィールド） 第11回：「わがままパスタレストラン / 感情」トピックのリスニング、講読、確認、討論（ハットフィールド） 第12回：「義務的な土曜日授業をどう思う？」暗唱（ハットフィールド） 第13回：「子どもの読み書き」グループプレゼンテーション（ハットフィールド） 第14回：「好きな本をどのように紹介するか」個人プレゼンテーション（ハットフィールド） 第15回：「どのクラスメートの好きな本を読みたいか？ なぜ？」口頭テスト（遊佐・ハットフィールド） 定期試験は実施しない。			
テキスト：『Eugene's March』（Steven Hatfield 著、Amazon KDP 社） 『Thunder and Rain Are Friends & The Boo-Boo Bulldozer』（Steven Hatfield 著、Amazon KDP 社） 『The Wagamama Pasta Restaurant』（Steven Hatfield 著、Amazon KDP 社）			
参考書・参考資料等：『Randall's ESL Cyber Listening Lab』（www.esl-lab.com）			
学生に対する評価：授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、エッセー（20%）、口頭テスト（30%）、暗唱（10%）			

授業科目名： 英会話Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：ハットフィールド ド スティーヴン 遊佐重樹
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>リスニング、ライティング、スピーキングなどの活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を向上させ、各ユニットの最後の質問に対して自身の考えや意見を言えるようにする。加えて、スピーキング、リスニング、ライティング、発音、語彙力増強を図る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>単語を調べ、クロスワードパズルを仕上げ、トピックの討論に備えて授業に臨む。授業では教員がストーリーを読み上げた後、ペアやグループで互いに読み合う。トピックに関して討論を行い、個人やグループでプレゼンテーションなどを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:「僕の名前は難民じゃない」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐・ハットフィールド）</p> <p>第2回:「子どもの難民物語」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐）</p> <p>第3回:「The Wendy and Wanda Chronicles 紹介」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐）</p> <p>第4回:「義務と責任の違いは何？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐）</p> <p>第5回:「自分自身、家族、国、世界において、あなたの義務と責任は何？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐）</p> <p>第6回:「助けを必要としている人を助ける」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐）</p> <p>第7回:「歴史上、偉大な女性は誰？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（遊佐）</p> <p>第8回:「勇気ある行動をとったことはある？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（ハットフィールド）</p> <p>第9回:「アメリカの無料ランチプログラムをどう思う？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（ハットフィールド）</p> <p>第10回:「物語で習った表現や単語の中で最も興味深いものは何？」トピックのリスニング、講読、確認、討論（ハットフィールド）</p> <p>第11回:「この物語を書いた著者の目的は何？」暗唱（ハットフィールド）</p> <p>第12回:「どの物語が一番好き？ なぜ？」口頭テスト（ハットフィールド）</p> <p>第13回:「好きな登場人物は誰？ なぜ？」グループプレゼンテーション（ハットフィールド）</p> <p>第14回:「物語から学んだ重要なことは何？」個人プレゼンテーション（ハットフィールド）</p> <p>第15回:「物語や登場人物と個人的な繋がりを持てる？ どのように？」口頭テスト（遊佐・ハットフィールド）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト: 『The Wendy and Wanda Chronicles』 (Steven Hatfield 著、Amazon KDP 社)			
<p>参考書・参考資料等:</p> <p>『My Name Is Not Refugee』 (<a href="https://www.youtube.com/watch?v=q9n1plse2K4">https://www.youtube.com/watch?v=q9n1plse2K4</a>)</p> <p>『What Is a Refugee?』 (<a href="https://www.youtube.com/watch?v=JyMyrZ720-Y">https://www.youtube.com/watch?v=JyMyrZ720-Y</a>)</p> <p>『Randall's ESL Cyber Listening Lab』 (<a href="http://www.esl-lab.com">www.esl-lab.com</a>)</p>			
<p>学生に対する評価 授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、エッセー (20%)、口頭テスト (30%)、暗唱 (10%)</p>			

授業科目名： Listening Comprehension	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：遊佐重樹 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 幅広いトピックの音源を使って、英語のリスニング能力を身につける。標準とされる英語以外のリスニングにも取り組み、スピードの速い英語の聴き取りへと段階を追うことで、リスニング能力の向上を図る。			
授業の概要 日常生活からビジネスまで幅広いトピックの音源を使って、基礎的なリスニング能力を身につける。リスニングは多くの英語を聴く学習と内容を意識して正確に聴き取る学習が必要で、これらのバランスをとりながら学習を進める。英語を母語とする人による英語ばかりでなく、第二言語・外国語として話している英語の音源を聴くことで、標準とされる英語以外のリスニングにも取り組む。スピードの速い英語の聴き取りへと段階を追うことで、リスニング能力を高める。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：Short Conversation（1）「急いでいる男」聴き取りとシャドーイング 第3回：Short Conversation（2）「欠勤問題」聴き取りとシャドーイング 第4回：Short Conversation（3）「商業物件」聴き取りとシャドーイング 第5回：Short Conversation（4）「野心的な若者」聴き取りとシャドーイング 第6回：Short Talk（1）「ビジネスニュース」聴き取りとシャドーイング 第7回：Short Talk（2）「新しい別館」聴き取りとシャドーイング 第8回：Short Talk（3）「工場ツアー」聴き取りとシャドーイング 第9回：Short Talk（4）「アウトソーシング」聴き取りとシャドーイング 第10回：Long Passage（1）「仕事で燃え尽き症候群」聴き取りとシャドーイング 第11回：Long Passage（2）「物を捨てられない人たち」聴き取りとシャドーイング 第12回：Long Passage（3）「左利き」聴き取りとシャドーイング 第13回：Long Passage（4）「エコツーリズム」聴き取りとシャドーイング 第14回：Long Passage（5）「エイブラハム・リンカーン」聴き取りとシャドーイング 第15回：Long Passage（6）「キング牧師」聴き取りとシャドーイング 定期試験			
テキスト 英語徹底耳練（外池滋生著、実務教育出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 毎時間の取り組み（50%）、定期試験（50%）			

授業科目名： 比較文化論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：熊谷 治子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 英語)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業の到達目標及びテーマ 世界各国の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。英語圏の各国の歴史・社会・文化の基本的な内容を理解し、その情報を発信するための知見を習得する。			
授業の概要 さまざまな国々における文化の違いを、多種多様な具体例をとりあげながら、多角的に考察する。英語圏の各国の歴史・社会・文化に関する基本的な内容を理解し、外国人留学生等をゲストに迎えて、グループ・ディスカッションを行う。			
授業計画 第1回:比較文化とは 第2回:絵画・映画の比較文化① イギリスと日本の絵画・映画に関連した歴史、社会、文化の多様性の知識を習得。 第3回:絵画・映画の比較文化② 第2回:絵画・映画の比較文化① で得た知見を基にして、イギリスの出身者をゲストとして迎えたグループ・ディスカッションを通じて、多角的に考察する。 第4回:音楽・文学の比較文化① アメリカと日本の音楽・文学に関連した歴史、社会、文化の多様性の知識を習得。 第5回:音楽・文学の比較文化② 第4回:音楽・文学の比較文化① で得た知見を基にして、アメリカの出身者をゲストとして迎えたグループ・ディスカッションを通じて、多角的に考察する。 第6回:行事・衣服の比較文化① カナダと日本の行事・衣服に関連した歴史、社会、文化の多様性の知識を習得。 第7回:行事・衣服の比較文化② 第6回:行事・衣服の比較文化① で得た知見を基にして、カナダの出身者をゲストとして迎えたグループ・ディスカッションを通じて、多角的に考察する。 第8回:食事・住居の比較文化① イギリスと日本の食事・住居に関連した歴史、社会、文化の多様性の知識を習得。 第9回:食事・住居の比較文化② 第8回:食事・住居の比較文化① で得た知見を基にして、イギリスの出身者をゲストとして迎えたグループ・ディスカッションを通じて、多角的に考察する。 第10回:結婚・宗教の比較文化① アメリカと日本の結婚・宗教に関連した歴史、社会、文化の多様性の知識を習得。 第11回:結婚・宗教の比較文化② 第10回:結婚・宗教の比較文化① で得た知見を基にして、アメリカの出身者をゲストとして迎えたグループ・ディスカッションを通じて、多角的に考察する。 第12回:ことわざ・ボディーランゲージの比較文化① カナダと日本のことわざ・ボディーランゲージに関連した歴史、社会、文化の多様性の知識を習得。 第13回:ことわざ・ボディーランゲージの比較文化② 第12回:ことわざ・ボディーランゲージの比較文化① で得た知見を基にして、カナダの出身者またはそれらの地域への在住経験者をゲストとして迎えたグループ・ディスカッションを通じて、多角的に考察する。 第14回:比較文化を学ぶ意味と意義① イギリス・アメリカ・カナダおよび中国・韓国・フィリピンの出身者をゲストとして迎え、西洋と東洋のさまざまな国々との異文化交流の現状と課題についてグループ・ディスカッションをして、多角的に考察する。 第15回:比較文化を学ぶ意味と意義② 第14回:比較文化を学ぶ意味と意義①で得た知見を基に考察し、各ディスカッション・グループごとに、比較文化を学ぶ意味と意義について発表する。			
定期試験			
テキスト テキストは使用せず、プリント等を用いる。			
参考書・参考資料等 ヨーロッパ文化と日本文化 (ルイス・フロイス、岩波文庫) 比較でとらえる世界の諸相 (山田孝子他編、英明企画) 日英ことわざの比較文化 (奥津文夫、大修館書店)			
学生に対する評価 1.平常点(40%)・・・グループ・ディスカッションにおける発言等の授業態度 2.レポート及び筆記試験(60%)			

授業科目名： 中等英語教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川井 一枝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校における英語の学習・指導に関する知識と授業指導の基礎を身につける。 ①学生は、英語という言語の特性について理解を深める。 ②学生は、日本の英語教育政策の歴史ならびに現状や課題について理解する。 ③学生は、学習指導要領（小学校・中学校・高等学校）の主旨を理解する。 ④学生は、第一言語・第二言語習得のメカニズムを知り、言語適性や動機づけなどSLAの要因について理解を深める			
授業の概要 教員の講義を聞くだけでなく、毎回ペアやグループでのディスカッション、指導案作成や実技練習などアクティブラーニングの要素やCD・DVD・ICTなどを用いたメディアの視聴など多様な形態を盛り込んだ授業構成となる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業概要・進め方・教室ルール・使用テキスト等の理解） 第2回：英語という言語の特質（他言語との比較・広がり多様性・CEFRと複言語主義） 第3回：日本社会における英語（英語使用の必要性・英語教育史） 第4回：日本の外国語教育1（育成すべき英語力（小・中・高）） 第5回：日本の外国語教育2（育成すべき英語力と学習指導要領（小・中・高）） 第6回：コミュニケーション能力（コミュニケーションのプロセス・異文化間コミュニケーション・コミュニケーション能力の構成要素） 第7回：英語学習の共通性1（第一言語習得のプロセス） 第8回：英語学習の共通性2（第二言語習得のプロセス） 第9回：英語学習の多様性に影響を与える認知要因1（言語適性とは何か） 第10回：英語学習の多様性に影響を与える認知要因2（言語適性をどのように扱うか） 第11回：英語学習の多様性に影響を与える認知要因3（動機付けとは何か） 第12回：英語学習の多様性に影響を与える認知要因4（動機付けをどのように扱うか） 第13回：英語学習の多様性に影響を与える認知要因5（学習方略とは何か） 第14回：英語学習の多様性に影響を与える認知要因6（学習方略をどのように扱うか） 第15回：実技・ディスカッション・まとめ 定期試験は実施しない			
テキスト 実践的英語科教育法（酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著、大修館書店）			
参考書・参考資料等 実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導（鈴木渉編、大修館書店） 小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）			
学生に対する評価 ①毎授業後の小課題（振り返り）30% ②ディスカッション・実技練習など授業内活動への参加度 30% ③期末レポート40% 上記①②③を総合的に評価する。			

授業科目名： 中等英語教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 渉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校における英語科教育の基礎を身に付ける。			
授業の概要 学習指導要領、教科用図書、音声指導、語彙・表現指導、文法指導、文字指導、英語でのやり取り、生徒の特性や習熟度に応じた指導、評価等に関する内容を扱う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：学習指導要領①－中学校－ 第3回：学習指導要領②－高等学校－ 第4回：教科用図書 第5回：音声指導 第6回：語彙・表現指導 第7回：文法指導 第8回：文字指導 第9回：英語でのやり取り 第10回：生徒の特性や習熟度に応じた指導 第11回：学習評価 第12回：教材研究 第13回：ICT等の活用 第14回：指導案作成 第15回：模擬授業 定期試験は実施しない			
テキスト 実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導（鈴木渉、大修館書店） 中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語編（文部科学省、開隆堂出版） 高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 外国語編・英語編（文部科学省、開隆堂出版） 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語（文部科学省、東洋館出版社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 指導案（30%）、模擬授業（30%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）、授業に対する貢献（10%）			

授業科目名： 中等英語教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川井 一枝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 中学校及び高等学校における英語の学習・指導に関する知識と授業指導の基礎を身につける。 ①学生は、学習指導要領（中学校・高等学校）に基づく指導方法を理解する。 ②学生は、学習指導要領（中学校・高等学校）に基づき指導案を作成することが出来る。 ③学生は、自らが作成した指導案に基づき部分的に実践することが出来る。 ④学生は、改善に向け批判的に授業を研究する視点を持つことが出来る。			
<b>授業の概要</b> 教員の講義を聞くだけでなく、毎回ペアやグループでのディスカッション、指導案作成や実技練習などアクティブラーニングの要素やCD・DVD・ICTなどを用いたメディアの視聴など多様な形態を盛り込んだ授業構成となる。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション（授業概要・教室ルール・使用テキスト等について） 第2回：学習評価のあり方・進め方（目標に基づく指導と評価の一体化の理解） 第3回：学習評価のあり方・進め方（目標に基づく指導と評価の一体化を考える） 第4回：英語教師としての資質（英語教師に必要な資質・能力） 第5回：中学校の指導と評価（学習指導要領の理解・めざす目標と指導計画） 第6回：中学校の指導と評価（学習指導要領に基づく指導方法と授業展開・評価） 第7回：中学校の指導と評価（授業デザインと学習指導案の理解） 第8回：中学校の指導と評価（授業デザインと学習指導案を考える） 第9回：高等学校の指導と評価（学習指導要領の理解・めざす目標と指導計画） 第10回：高等学校の指導と評価（学習指導要領に基づく指導方法と授業展開・評価） 第11回：高等学校の指導と評価（授業デザインと学習指導案） 第12回：指導案作成（指導案を作成する） 第13回：模擬授業①（模擬授業の実践①・授業研究 前半の学生） 第14回：模擬授業②（模擬授業の実践②・授業研究 後半の学生） 第15回：まとめ（模擬授業の振り返り・授業研究） 定期試験は実施しない			
<b>テキスト</b> 実践的英語科教育法（酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著、大修館書店）			
<b>参考書・参考資料等</b> 実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導（鈴木渉編、大修館書店） 小学校学習指導要領（平成29年告示 解説 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年告示 解説 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年告示 解説 文部科学省）			
<b>学生に対する評価</b> ①毎授業後の小課題（振り返り）20% ②ディスカッション・実技練習など授業内活動への参加度 30% ③指導案 30% ④模擬授業 20% 上記①②③④を総合的に評価する。			

授業科目名： 中等英語教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 渉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校における英語科の指導技術の基礎を身に付ける。			
授業の概要 学習指導要領、教科用図書、音声指導、語彙・表現指導、文法指導、文字指導、英語でのやり取り、生徒の特性や習熟度に応じた指導、評価等に関する内容を扱う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：音声指導 第3回：語彙・表現指導 第4回：文法指導 第5回：文字指導 第6回：異文化理解の指導 第7回：教材研究 第8回：ICT等の活用 第9回：英語でのやり取り 第10回：生徒の特性や習熟度に応じた指導 第11回：ALT等とのティーム・ティーチング 第12回：技能統合型の言語活動の指導 第13回：模擬授業①－聞くことの指導－ 第14回：模擬授業②－読むことの指導－ 第15回：模擬授業③－書くことの指導－ 定期試験は実施しない			
テキスト 実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導（鈴木渉、大修館書店） 中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語編（文部科学省、開隆堂出版） 高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 外国語編・英語編（文部科学省、開隆堂出版） 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語（文部科学省、東洋館出版社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 指導案（30%）、模擬授業（30%）、 毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）、授業に対する貢献（10%）			

授業科目名： 保育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三浦主博 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標： ①保育の意義及び目的について理解する。 ②保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ③保育の思想と歴史の変遷について理解する。 ④保育の現状と課題について理解する。			
授業の概要： 保育の意義及び目的、保育に関する法令（児童福祉法、学校教育法、認定こども園法等）及び制度（保育所、幼稚園、認定こども園、子ども・子育て支援新制度等）、保育所保育指針における保育の基本（保育の目標、内容、環境、方法、計画と評価等）について概説する。また、諸外国と日本を比較しながら、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題について概説し、話し合いや発表等を通して理解を深め考えていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション…授業の進め方 第2回：保育の意義及び目的 保育の理念と概念 第3回：保育に関する法令及び制度①：保育所 第4回：保育に関する法令及び制度②：幼稚園 第5回：保育に関する法令及び制度③：子ども・子育て支援新制度 第6回：保育に関する法令及び制度④：幼保連携型認定こども園 第7回：保育所保育指針における保育の基本①：保育所保育指針とは 第8回：保育所保育指針における保育の基本②：保育における養護 第9回：保育所保育指針における保育の基本③：保育の目標・内容 第10回：保育所保育指針における保育の基本④：保育の環境・方法 第11回：保育所保育指針における保育の基本⑤：子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環 第12回：保育の思想と歴史の変遷①：諸外国の保育の思想と歴史 第13回：保育の思想と歴史の変遷②：日本の保育の思想と歴史 第14回：保育の現状と課題①：諸外国の保育の現状 第15回：保育の現状と課題②：日本の保育の現状と課題 定期試験			
テキスト つながる保育原理（井上孝之・小原敏郎・三浦主博編著）みらい			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼稚園教育要領解説（文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文科省・厚労省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、保育所保育指針解説（厚生労働省）			
学生に対する評価 期末試験（50%）：受講態度（20%）：授業へ意欲的に取り組む姿勢など レポート課題（30%）：授業中に行う、もしくは宿題にする課題や小テスト			

授業科目名： 発達障害論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：八木孝憲 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ①幼児期から青年期にかけての発達の特徴について理解を深める。 ②発達障害を中心に、発達期の障害について、その実態と評価方法に関する知識を得る。 ③発達障害児への支援を中心に、根拠に基づいた支援について理解する。			
授業の概要 特に幼児期から児童期にかけての発達とその障害について理解を深める。 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達の諸相とその障害について具体的な内容を理解し根拠に基づいた支援方法の基礎的な知識について学習する。			
授業計画 第1回：発達とは①「社会性の発達」 第2回：発達とは②「言語とコミュニケーションの発達」 第3回：発達とは③「認知発達」 第4回：発達とその評価の実際(フォーマルアセスメント) 第5回：発達とその評価の実際(インフォーマルアセスメント) 第6回：問題行動の理解と評価 第7回：発達障害①ASD 実態理解 第8回：発達障害②ASD アセスメントと支援法 第9回：発達障害③ADHD 実態理解 第10回：発達障害④ADHD アセスメントと支援法 第11回：発達障害⑤SLD 実態理解 第12回：発達障害⑥SLD アセスメントと支援法 第13回：障害とコンサルテーション①幼児期 第14回：障害とコンサルテーション②児童期 第15回：これまでのまとめと今後の展望 定期試験			
テキスト 使用しない。			
参考書・参考資料等 毎回授業時に講義資料を配布する。			
学生に対する評価 期末試験 40% 択一式問題及び小論文 レポート(1回)小テスト(2回) 30% 授業中に課題を提示する。 意欲 30% 積極的な参加・発言			

授業科目名： 指導法の研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松好伸一 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標： ①子どもの発達を知る。 ②保育の基本を理解する。 ③保育の方法を考える。 ④保育実技の研究を深める。			
授業の概要： 乳幼児期の保育は、子ども一人一人の発達の特性を踏まえ、遊びを通じた総合的な関わりの展開であることを学ぶ。また、保育の基本を理解し、保育の方法について考える。まずは、保育実践の基盤となる環境構成のありかた、子どもの発達を捉えた援助や留意すること、そして家庭との連携のありかたについて、これらを基本的知識・技術を深めるとともに、アクティブ・ラーニングを通して、実践に必要な保育方法とその技術を習得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業内容の概要説明 第2回：幼稚園一日観察実習の振り返り 第3回：保育の基本 保育実践の基本と保育所・幼稚園の理解 第4回：子ども理解と保育 乳児・1歳以上3歳未満児の保育 第5回：子ども理解と保育 3歳以上の保育 第6回：保育所での実習内容 保育所実習の意義、目的、概要 第7回：保育環境と保育実技に関する教材研究 保育実技（児童文化財）の紹介と活用方法 第8回：保育環境と保育実技に関する教材研究 手作り文化財製作 第9回：保育の観察と記録① 観察の意義と方法 第10回：保育の観察と記録② 実習日誌の記録の方法 第11回：保育の計画① 指導計画とは、指導案立案の方法 第12回：保育の計画② 指導案立案と実践「部分実習」 第13回：保育の計画③ 指導案立案と実践「全日実習」 第14回：保育の記録と評価 記録の取り方と評価方法 第15回：まとめ 学びの振り返りと今後の課題 保育所一日観察実習に向けて 定期試験は実施しない。			
テキスト 特に指定しない。			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼稚園教育要領解説（文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文科省・厚労省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、保育所保育指針解説（厚生労働省）			
学生に対する評価 受講態度（40%）：授業へ意欲的に取り組む姿勢など レポート課題（60%）：レポートの提出状況を含め、総合的に判断する			

授業科目名： 保育の計画と評価	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松好伸一 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 子どもを理解する。</p> <p>② 保育の計画基本的考え方を知る。</p> <p>③ 計画立案ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保育の計画（全体的な計画及び指導計画）について学ぶ。保育の計画を立てる上で前提となる子どもの発達理解を進めながら、保育を「計画する」ことと、「評価する」こと、それぞれの意義について考える。特に、現場で求められる指導計画立案の方法について基本的知識を習得する。PDCAサイクルに基づいた保育実践を追求し、保育の営みの本質を探る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業内容の概要説明</p> <p>第2回：保育の計画とは 保育の計画の基本を知る</p> <p>第3回：保育の計画の位置づけ 保育の計画の実際を知る</p> <p>第4回：全体的な計画と指導計画 全体計画と指導計画の関連について</p> <p>第5回：子ども理解と指導計画 指導案立案（0歳児）</p> <p>第6回：子ども理解と指導計画 指導案立案（1歳児）</p> <p>第7回：子ども理解と指導計画 指導案立案（2歳児）</p> <p>第8回：子ども理解と指導計画 指導案立案（3歳児）</p> <p>第9回：子ども理解と指導計画 指導案立案（4歳児）</p> <p>第10回：子ども理解と指導計画 指導案立案（5歳児）</p> <p>第11回：指導案立案のまとめ（乳児・幼児クラス）</p> <p>第12回：小学校・地域との連携幼保小・地域連携，子育て支援について</p> <p>第13回：保育の実践と評価① 計画に基づいた実践のありかた</p> <p>第14回：保育の実践と評価② 計画に基づいた実践を評価するとは</p> <p>第15回：まとめ学びの振り返りと今後の課題</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト 特に指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼稚園教育要領解説（文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文科省・厚労省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、保育所保育指針解説（厚生労働省）</p>			
<p>学生に対する評価 受講態度(40%)授業への参加意欲。</p> <p>レポート課題(60%)提出状況を含め、総合的に判断する。</p>			

授業科目名： ピアノ入門A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 四家昌博 岩淵摂子
			担当形態： クラス分け、単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育を実践するうえで必要なピアノ演奏の基礎的な技術を身に付ける</li> <li>・基礎的なソルフェージュの能力を身に付け、豊かな音楽表現の能力を養う</li> </ul>			
授業の概要			
<p>教育・保育の現場で音楽を指導し、音楽表現を子どもと一緒に楽しむために必要となる、ピアノを演奏するための基礎的な技術を身に付け、豊かな音楽表現の能力を養い、楽譜を読むための基礎的なソルフェージュの能力を身に付ける。また、こどもの歌の簡単な弾き歌いを初歩から学習し、弾き歌いの基礎的な能力を身に付ける。コードネームの基礎的な知識を身に付け、伴奏としてのコード奏法の基礎を学習する。集団によるグループレッスンを行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション テキスト、練習方法、楽器の扱い等 音名の理解と鍵盤の認知  第2回：楽譜の読み方、運指  第3回：音譜・休符の名称と長さ、小節、拍子  第4回：両手ユニゾン、弾き歌い 小テスト①  第5回：2音のつながった音の弾き方（脱力とフレーズの弾き方に関して）  第6回：5指の運動：基本のポジション  第7回：指くぐり、指ひろげ 小テスト②  第8回：指くぐり、指ひろげ（こどもの歌を用いて）  第9回：音階を弾く、指くぐりと指かぶせ  第10回：分散和音、指ちぢめ 小テスト③  第11回：コードによる伴奏付けの奏法  第12回：ペダルの使い方  第13回：これまでのまとめ（参考曲）  第14回：これまでのまとめ（試験曲） 小テスト④  第15回：これまでのまとめ（参考曲、試験曲）  定期試験：実技試験（弾き歌い）</p>			
テキスト			
<p>仙台白百合女子大学 ピアノ入門A 教科書  こどものうた100 チャイルド社  メトード・ローズ ピアノ教則本 音楽之友社</p>			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜配付する。			
学生に対する評価			
実技試験・小テスト（80%）、課題・受講態度（20%）			

授業科目名： ピアノ入門B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 四家昌博 岩淵摂子
			担当形態： クラス分け、単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ・教育・保育を実践するうえで必要なピアノ演奏の基礎的な技術を身に付ける ・基礎的なソルフエージュの能力を身に付け、豊かな音楽表現の能力を養う			
授業の概要 教育・保育の現場で音楽を指導し、音楽表現を子どもと一緒に楽しむために必要となる、ピアノを演奏するための基礎的な技術を身に付け、豊かな音楽表現の能力を養い、楽譜を読むための基礎的なソルフエージュの能力を身に付ける。特にピアノ独奏について、基礎的な読譜力やリズムについての知識を身につけ、暗譜で独奏できる能力を身に付ける。また、こどもの歌の弾き歌いの基礎的な能力を身に付ける。個人のレベルに合わせた個人レッスンをを行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 教則本、練習方法、楽器の扱い等 前期内容の復習 第2回：メトード・ローズピアノ教則本より「ブルーレ」、「とべ！小さな蜜蜂よ！」など 第3回：メトード・ローズピアノ教則本より「お山の大将」、「おばあちゃまのお話」など 第4回：メトード・ローズピアノ教則本より「小さい円舞曲」、「月の光に」など 第5回：メトード・ローズピアノ教則本より「シュゾン」、「お父さま！」など 第6回：メトード・ローズピアノ教則本より「木ぼりの小さい兵隊さん」、「かつこう鳥」など 第7回：メトード・ローズピアノ教則本より「問と答え」、「そら！人形が踊る」など 第8回：メトード・ローズピアノ教則本より「バラ色のメヌエット」、「ああかわいい！」など 第9回：メトード・ローズピアノ教則本より「ガスコーニュの兵士たち」、「冬さん、さようなら！」など 第10回：メトード・ローズピアノ教則本より「お城を攻めとられるな！」、「夜の歌」など 第11回：メトード・ローズピアノ教則本より「私はいもの持っているのよ！」、「よい子よ、ねんねしな」など 第12回：メトード・ローズピアノ教則本より「春の朝の歌」、「ブリュターニュの小唄」など 第13回：メトード・ローズピアノ教則本より「風車やさん、ねむっちゃだめよ」、「小さい子守唄」など 第14回：メトード・ローズピアノ教則本より「シラノドベルジュラック」、「アルザスの円舞曲」など 第15回：メトード・ローズピアノ教則本より「踊り続けましょう」、「アラビヤの歌」など 定期試験：実技試験（独奏）			
テキスト こどものうた100 チャイルド社			
参考書・参考資料等 メトード・ローズ ピアノ教則本 音楽之友社（進度による） 進度に合わせ授業中に適宜楽譜を配付する。			
学生に対する評価 実技試験（50％）、課題・受講態度（50％）			

授業科目名： 音楽入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩淵 摂子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自分の力で楽譜（五線譜）を読み、書き、歌えるようになること、子どもの歌に簡単なコード伴奏をつけて弾き歌いができるようになること、身の回りの多様な音への気づきを深め豊かな音楽表現の基礎を身につけることを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>基礎的な楽典を実際の音と結び付けて学習し、コードネームを理解し応用できるようにする。気づいた音を言語化し、他者と共有することによってさらに表現を深める。わらべうたや子どもの歌の弾き歌い、リズム・アンサンブル等を行って音楽の経験を豊かにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：音に耳をすます、音名と階名、五線、音部記号について</p> <p>第2回：気づいた音を記述する、単純音符と休符、リズムについて</p> <p>第3回：気づきを他者と共有する、付点音符と休符、単純拍子について</p> <p>第4回：変化記号と派生音名、複合拍子について</p> <p>第5回：小テスト①、全音と半音について、長調の音階について</p> <p>第6回：音程（長3度と短3度）について、発声法の基礎</p> <p>第7回：メジャーコード（長三和音）の構造について、ハ長調の主要三和音について</p> <p>第8回：ニ長調とト長調の音階及び主要3和音について</p> <p>第9回：ト長調の音階及び主要3和音について、マイナーコード（短三和音）の構造について</p> <p>第10回：小テスト②、省略記号、強弱記号、発想記号について</p> <p>第11回：リズム・アンサンブル①少人数グループによるアンサンブル、わらべうた①（3歳未満）</p> <p>第12回：リズム・アンサンブル②自分たちでリズムを考えて発表、わらべうた②（3歳以上）</p> <p>第13回：増三和音、減三和音について、手遊び①（3歳未満）</p> <p>第14回：コード伴奏を応用した弾き歌いについて、手遊び②（3歳以上）</p> <p>第15回：まとめ、コード伴奏による弾き歌い実技試験に向けて</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト これだけは知ってほしい楽典 はじめの一步（木村鈴代他共著、カワイ出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価 定期試験（50%）、小テスト（10%×2回）、実技試験（30%）</p>			

授業科目名： 造形入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：千 凡晋 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら造形活動を体験し、身近な画材・材料の探索、道具の扱い方などを学びながら、作り上げる楽しさと喜びを味わう。</li> <li>・子どもの造形活動や表現を理解し、その表現活動や遊びを援助・指導するために必要な造形に関する基礎的な知識と技能を身につける。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>子どもの造形活動に大いに使われている身近な画材・材料と用具を用いて計画的に製作を行うことで、子どもの造形活動を支える基礎・基本の知識と技能・方法を身につける。本授業では、製作活動を通して作り上げる楽しさと喜びを体験するとともに、学生主導のアクティブ・ラーニングを用いて造形活動に関する支援や指導の方法を自ら発見することを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：身近な用具の使い方の見直し（ハサミ・カッター類）</p> <p>第3回：材料・道具の探索1（クレヨン・サインペン・水彩絵具）</p> <p>第4回：材料・道具の探索2（自然物）</p> <p>第5回：材料・道具の探索3（水彩絵具）</p> <p>第6回：材料・道具の探索4（紙粘土①）（構想・計画・実践）</p> <p>第7回：材料・道具の探索5（紙粘土②）（実践・まとめ）</p> <p>第8回：材料・道具の探索6（情報機材） / 段ボール遊具の製作に向けたグループワーク</p> <p>第9回：材料・道具の研究（段ボール箱・リサイクル材①）（構想・計画）</p> <p>第10回：材料・道具の研究（段ボール箱・リサイクル材②）（準備・実践）</p> <p>第11回：材料・道具の研究（段ボール箱・リサイクル材③）（実践）</p> <p>第12回：材料・道具の研究（段ボール箱・リサイクル材④）（まとめ・発表）</p> <p>第13回：材料・道具の探索7（マーブリング絵具）</p> <p>第14回：材料・道具の探索8（スチレン材）</p> <p>第15回：振り返りと作品集の感想会</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキストは使用しない			
参考書・参考資料等 随時、材料と制作技法に関する資料を作成し、配布する。			
学生に対する評価 成果物（60%）、課題（30%）、受講態度（10%）			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：曾我洋介 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>日本国憲法の各規定に何が定められているのか、それが各国家機関によってどのように実践されているのか、それらがいかなる考え方によって基礎づけられているのか、そして憲法解釈に争いのある事例がどのような考え方の違いによって惹き起こされているかについて学習する。</p> <p>到達目標：①各国家機関の組織と権限について記述できる。②基本的権利の内容とその実現方法について記述できる。③憲法の基礎にあつてこれを支える考え方について記述できる。④国の活動に対する日本国憲法による特定の法律のあり方について、理由を示しながら論理的に記述できる。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>日本国憲法が、どのように解釈され、どのように実践されているのかについて、その基礎にある理論とともに説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入と権利義務について</p> <p>第2回：憲法とは何か</p> <p>第3回：法律（国会による立法）と命令（行政機関による立法）について</p> <p>第4回：権利を制限するための法などについて（法律事項＝国会が定めなければならない事項）</p> <p>第5回：非法律事項（行政機関も定められる事項）と内閣が作成し国会が承認する「予算」について</p> <p>第6回：内閣が締結する「条約」について</p> <p>第7回：裁判を受ける権利について</p> <p>第8回：法律に基づく裁判権について</p> <p>第9回：裁量権、部分社会の法理、基本的人権の機能の仕方などについて</p> <p>第10回：違憲審査権</p> <p>第11回：基本的人権1 公共の福祉の基本的性質について</p> <p>第12回：基本的人権2 諸権利の基本的性質について</p> <p>第13回：基本的人権3 権利制限の合憲性審査について</p> <p>第14回：自衛権と戦争等について</p> <p>第15回：日本国憲法9条の解釈について</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>大石眞・大沢秀介編著『判例憲法（第3版）』（有斐閣2016年）</p> <p>大沢秀介編『判例ライン 憲法 第2版』（成文堂2011年）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題100%：ノートの提出50%、確認問題50%</p>			

授業科目名： 健康とスポーツ A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：仲野隆士 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小・中・高と学校体育で学習する既存のスポーツ種目のみならず、ニュースポーツや軽スポーツなどの楽しさや重要性などについて学ぶ。また、授業を通して楽しさのマネジメントについて理解する。</p> <p>到達目標：①体育額の基礎事項を身につける、②ライフスタイルにおいて定期的に運動やスポーツを楽しむことの重要性を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では「軽スポーツ」の実技を中心に授業を展開する。その軽スポーツの実践を通して楽しさのマネジメント能力を育成するとともに、アクティブラーニングを通してスポーツの定義でもある「ルールがあり、遊びの要素を含んだ楽しい身体活動」の体験知や実践力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：軽スポーツについて、グループ分け</p> <p>第2回：アイスブレイクゲーム</p> <p>第3回：バレーボール型1（全員タッチ・ヘディングバレーボール）</p> <p>第4回：バレーボール型2（絶対3回・リレーバレーボール）</p> <p>第5回：バレーボール型3（サバイバル・オリジナル6人制バレーボール）</p> <p>第6回：バスケットボール型1（バスヘッドボール）</p> <p>第7回：バスケットボール型2（バスペットボトル）</p> <p>第8回：バスケットボール型3（多得点型バスケットボール）</p> <p>第9回：テーブルテニス型</p> <p>第10回：フライングディスク型1（オリジナルドッジビー）</p> <p>第11回：フライングディスク型2（アルティペット）</p> <p>第12回：サッカー型</p> <p>第13回：記録にチャレンジ（卓球・バトミントン型）</p> <p>第14回：グループ対抗リレー型</p> <p>第15回：振り返りとまとめ（終了レポート作成）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>仲野隆士・原田宗彦編著『新しい軽スポーツのすすめ－体育を楽しく』</p> <p>北川勇人・日本レクリエーション協会編著『改訂ニュースポーツ事典』</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み(70%)グループの中での取り組みの積極性や態度など</p> <p>授業内レポート(30%)教室での授業の際に実施する。</p>			

授業科目名： 健康とスポーツ B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：仲野隆士 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小・中・高と学校体育で学習する既存のスポーツ種目のみならず、ニュースポーツや軽スポーツなどの楽しさや重要性などについて学ぶ。また、授業を通して楽しさのマネジメントについて理解する。</p> <p>到達目標：①体育額の基礎事項を身につける、②ライフスタイルにおいて定期的に運動やスポーツを楽しむことの重要性を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では「ニュースポーツ」の実技を中心に授業を展開する。その「ニュースポーツ」の実践を通して楽しさのマネジメント能力を育成するとともに、アクティブラーニングを通してスポーツの定義でもある「ルールがあり、遊びの要素を含んだ楽しい身体活動」の体験知や実践力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ニュースポーツについて</p> <p>第2回：フィットネスゲーム</p> <p>第3回：インディアカ1（用具になれる・ルールの理解・簡易ゲーム）</p> <p>第4回：インディアカ2（インディアカ・亀の甲リーグ）</p> <p>第5回：ペタンク（インドア・アウトドア）</p> <p>第6回：バグジー</p> <p>第7回：ユニバーサルホッケー1（用具になれる・ルールの理解・簡易ゲーム）</p> <p>第8回：ユニバーサルホッケー2（亀の甲リーグ）</p> <p>第9回：ユニバーサルホッケー3（トーナメントゲーム）</p> <p>第10回：ディスクゴルフ</p> <p>第11回：アルティメット</p> <p>第12回：レク・ダンス</p> <p>第13回：キンボール1（用具になれる・ルールの理解・簡易ゲーム）</p> <p>第14回：キンボール2（トーナメントゲーム）</p> <p>第15回：振り返りとまとめ（終了レポート作成）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>仲野隆士・原田宗彦編著『新しい軽スポーツのすすめ－体育を楽しく』</p> <p>北川勇人・日本レクリエーション協会編著『改訂ニュースポーツ事典』</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み(70%)グループの中での取り組みの積極性や態度など</p> <p>授業内レポート(30%)教室での授業の際に実施する。</p>			

授業科目名： オールラウンド・コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：ハットフィールド スティーヴン、ミューヘッド ジェラルド 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>様々なジャンルや話題の英語を聞いたり読んだりして、目的に応じて、情報や考えなどを理解することができる。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて、英語で話したり、自分の意見や理由を述べたりすることができる。英語を書くこと、話すことの技術を向上させることで、英語によるコミュニケーション能力を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ICT教材に基づいて、主に英語の聞く能力と話す能力を向上させることに特に重点を置きつつ、練習問題を通して、読んだり、書いたりする力を補う授業を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、クラスで使用する英語表現の説明  第2回：「新しいホスト」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第3回：「国と国籍」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第4回：「キムに会う」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第5回：復習と小テスト  第6回：「パーソナル・アイテム」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第7回：「カバンの中に何がありますか」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第8回：「活動と興味」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第9回：「私たちは学んでいます」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第10回：復習と小テスト  第11回：「食物と食習慣」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第12回：「早くしてください」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第13回：「予測する / 結論を引き出す」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第14回：「頑張りました」トピックのリスニング、講読、確認、討論  第15回：復習と確認</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『Good Morning World I』 (Susan Stempleski 他著、センゲージラーニング)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>英和、和英辞書</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業態度 (30%)、課題 (20%)、定期試験 (50%)</p>			

授業科目名： オーラル・コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：ハットフィールド ド スティーヴン、ミューヘ ッド ジェラルド 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 様々なジャンルや話題の英語を聞いたり読んだりして、目的に応じて、情報や考えなどを理解することができる。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて、英語で話したり、自分の意見や理由を述べたりすることができる。英語を書くこと、話すことの技術を向上させることで、英語によるコミュニケーション能力を高める。			
授業の概要 ICT教材に基づいて、主に英語の聞く能力と話す能力を向上させることに特に重点を置きつつ、練習問題を通して、読んだり、書いたりする力を補う授業を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：「提案をする」「忙しいスケジュール」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第3回：「祝日とお祝い」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第4回：「お祭り」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第5回：復習と小テスト（各トピックで学んだ表現を用いて自分の意見を英語で述べることができ るかを確認する） 第6回：「推測と文の強勢」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第7回：「謝罪」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第8回：「要点と詳細を聞き取る」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第9回：「驚きを示す」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第10回：復習と小テスト（各トピックで学んだ表現を用いて自分の意見を英語で述べることができ るかを確認する） 第11回：「洋服の買い物」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第12回：「価格を尋ねる、提示する」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第13回：「予想をする / 結論を引き出す」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第14回：「よく頑張りました」トピックのリスニング、講読、確認、討論 第15回：復習と応用練習 定期試験			
テキスト 『Good Morning World I』（Susan Stempleski 他著、センゲージラーニング）			
参考書・参考資料等 英和、和英辞書			
学生に対する評価 授業態度（30%）、課題（20%）、定期試験（50%）			

授業科目名： 情報処理概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：熊谷健二 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報システム機器を用いて情報を適切に処理し、さらに活用できる能力（コンピュータリテラシ）を身につける事を目的とする。</p> <p>到達目標：①コンピュータを使った情報処理に必要な基本的な技術を身につける、②情報社会で生き抜くために必要な基本的なモラルとマナーを身につける、③身につけた知識と技術を、他の科目でも活かすことができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>キーボード・マウス操作、日本語入力（タイピング）からはじめて、ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を学ぶ。また、WWWや電子メールを中心としたインターネットの活用方法やモラルやマナーなどについても学習する。授業では基本操作をマスターした後に、さらに身につけた操作を自分で主体的に活用するなど深い学びへとつなげる（アクティブラーニング）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：情報機器の操作、日本語入力</p> <p>第3回：Wordの操作 基本的な文書の作成</p> <p>第4回：Wordの操作 図や表の挿入</p> <p>第5回：Wordの操作 表現力をアップする機能の利用</p> <p>第6回：インターネット（メール、WWW）の活用</p> <p>第7回：Excelの操作 表の作成</p> <p>第8回：Excelの操作 計算の仕方</p> <p>第9回：Excelの操作 グラフの作成</p> <p>第10回：Excelの操作 データベース機能</p> <p>第11回：情報モラルと情報セキュリティ</p> <p>第12回：PowerPointの操作 スライドの作成</p> <p>第13回：PowerPointの操作 写真、図形、表、グラフの挿入</p> <p>第14回：PowerPointの操作 アニメーションの設定</p> <p>第15回：PowerPointの操作 プレゼンテーションの練習</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>『情報リテラシー 入門編 Windows10, Office2019対応』（FOM出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>受講態度(40%) 授業への積極的な態度等を考慮する。</p> <p>課題(60%) 授業内容の確認のための課題。</p>			

授業科目名: 教育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:加藤美紀 担当形態:単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は 事項等	・教育の理念並びに教育の歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ 教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのか、教育の歴史及び代表的な教育思想を学びながら、教育の基本的概念、教育の理念についての理解を深める。			
授業の概要 教育の諸概念並びに教育の本質及び目標、教育及び学校の歴史の変遷、代表的な教育思想を学び、子供・教員・家庭・学校など教育を成立させる諸要素の相互関係を理解し、現代社会における教育課題を歴史的な視点から捉える。			
授業計画 第1回:教師になる心構え:よい教師・よい教育を目指してのガイダンス 第2回:教育とは何か:人間形成における教育の役割・教育の本質について 第3回:教育学の使命:教育学の基本的概念について 第4回:教えることと学び:教育と学習、教師と子供の関係性について 第5回:学校教育の歴史 第6回:学校の存在意義 第7回:世界の教育思想家 第8回:日本の学校の歴史 第9回:戦後の教育転換と民主主義の教育の課題 第10回:教育の制度 第11回:カリキュラムと学力 第12回:授業づくり 第13回:生徒理解と指導 第14回:教員養成と教師教育 第15回:現代社会における教育課題 定期試験			
テキスト 『教育学をつかむ』(木村元・小玉重夫・船橋一男 共著、有斐閣)			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 定期試験(70%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(30%)			

授業科目名： 保育者論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三浦主博 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ①教職(幼稚園教諭)及び保育士の社会的意義や制度的な位置づけを理解する。②保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)の専門性や役割、資質能力を理解する。③保育者の職務内容について理解する。④保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。⑤保育現場の内外での連携・協働について理解する。			
<b>授業の概要</b> 教職・保育職の意義、保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職・保育職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。そのために、保育職の選択、保育者の役割、制度、専門性、協働などについて概説する。また、保育者としてのキャリア形成について考えるためにグループワーク等を行う。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 第2回：保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)になる私・・・プレ保育者アイデンティティ 第3回：保育者の役割・資質能力と責務・倫理 第4回：保育者の制度的位置づけ・・・資格・要件・職務内容(サービス・身分保障等) 第5回：保育者の専門性①:幼稚園教育要領にみる幼稚園教諭の役割 第6回：保育者の専門性②:保育所保育指針にみる保育者の専門性と資質 第7回：保育者の専門性③:幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる保育教諭の役割 第8回：保育者の専門性④:子ども理解・保育の計画・実践・省察 第9回：保育者の協働①:保護者支援 第10回：保育者の協働②:幼・保・認定こども園と小学校の接続 第11回：保育者の協働③:専門職・機関及び地域社会との連携 第12回：保育者の専門職的成長①:保育者としての成長と研修(法定研修・自己啓発) 第13回：保育者の専門職的成長②:生涯発達とキャリア形成 第14回：保育者の専門職的成長③:自分たちが目指す保育者像 第15回：まとめ 定期試験は実施しない。			
<b>テキスト</b> 保育者のためのキャリア形成論（石川昭義他著、建帛社）			
<b>参考書・参考資料等</b> 幼稚園教育要領解説（文部科学省）／保育所保育指針解説書（厚生労働省）／幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省）			
学生に対する評価 授業への取り組みの状況（30%）、及び提出課題（70%）により総合的に評価する。			

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡 敬一郎 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学校教育を支える教育行政のあり方や学校・学級経営などについて理解し、教員として求められる基礎的・基本的な知識を身につけることを目的とする。			
授業の概要 日本における教育制度や教育行財政のしくみ、学校・学級経営に関する法規やそのあり方、学校安全や地域と学校の連携などの現代的な課題とこれへの対応を順に学ぶ。			
授業計画 第1回：教育行政の成立 第2回：教育行政の法律主義 第3回：教育の機会均等 第4回：国における教育行財政 第5回：地方における教育行財政(1)地方公共団体の長 第6回：地方における教育行財政(2)教育委員会 第7回：まとめのテスト①、学校の種類と体系 第8回：学校への就学 第9回：学校の設置・管理 第10回：学校の組織・運営 第11回：学習集団の編制 第12回：学校の保健・安全 第13回：学校と地域との連携 第14回：学校評価、まとめのテスト② 第15回：教育行政の現代的課題に関する分析と討論 定期試験は実施しない。			
テキスト 『必携教職六法』（高見茂監修、協同出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）、課題レポート（20%）、授業中に実施するまとめのテスト（50%）			

授業科目名： 教育・学校心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山崎 洋史 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>施行規則に定める科目区分又は事項等：「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）」の趣旨・規準を達成することを目的とする授業科目である。</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生育、発達、学習現象の一般的な過程及びその障害や偏倚について概説し、それらを踏まえた教育段階での指導・支援の在り方や集団および個別方法論といったテーマを取り扱う。</p>			
<p>授業計画と予習復習内容及び必要な時間</p> <p>第1回 幼児心理学・児童心理学・青年心理学・教育心理学の概観：内容と目標、歴史、理論、研究方法論</p> <p>第2回 幼児期・児童期・青年期にわたる心身発達の諸相：遺伝と学習、発達の諸理論、認知発達、パーソナリティ形成、社会性の発達</p> <p>第3回 自己理解の発達：自己（self）の形成、自己意識、自我の機能、アイデンティティ、キャリア展望の発達</p> <p>第4回 対人関係の発達と学校教育：親子関係、仲間関係、円滑な対人関係と対人不適応</p> <p>第5回 学習の基礎：条件づけ、強化、消去、弁別、転移、学習の諸理論、社会的学習、運動学習</p> <p>第6回 学習意欲：動機づけの発達、学習性無力感、原因帰属、自律的な学習、発展性を促す学習</p> <p>第7回 学習の進め方：記憶の特性、思考の特性、情動的修飾、社会的文脈</p> <p>第8回 授業の方法：学習方略と授業、グループ学習、メタ認知の活用、体験的学習の活用</p> <p>第9回 学級集団：クラス内の児童・生徒関係、教師—児童・生徒関係、集合行動、協同と競争</p> <p>第10回 学校不適応への対応：いじめ、不登校、非行、教育相談、発達障害、精神疾患</p> <p>第11回 ストレスへの対応：ストレスコーピング、レジリエンス、カウンセリング、心理療法</p> <p>第12回 知能：さまざまな知能観、測定方法、測定結果の利用</p> <p>第13回 学力：さまざまな学力観、背景状況を踏まえた把握方法</p> <p>第14回 教育評価：測定と評価、アセスメントと処遇、法的・制度的根拠</p> <p>第15回 学習指導とその実践：さまざまなタイプの学習指導、個に応じた学習指導の重要性</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教育心理学概論（太田信夫著、放送大学教育振興会）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>グラフィック心理学（北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子共著、サイエンス社）</p>			
<p>学生に対する評価 定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）</p>			

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：三浦 主博 八木 孝憲 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>			
<p>①特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>②特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。</p> <p>③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の保育上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>幼稚園・認定こども園や小・中学校の通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒が、保育や授業に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力やその基礎を身に付けていくことができるよう、幼児・児童・生徒の保育・学習上又は生活上の困難を理解し、個別の保育・教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>第1回:特別支援教育(インクルーシブ教育)に関する制度の理念や仕組み</p> <p>第2回:障害児の理解と支援①(身体障害)</p> <p>第3回:障害児の理解と支援②(知的障害)</p> <p>第4回:障害児の理解と支援③(発達障害)</p> <p>第5回:特別支援教育に関する教育課程の理解</p> <p>第6回:個別の指導計画及び個別の教育支援計画作成の意義と方法</p> <p>第7回:特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携による支援</p> <p>第8回:障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の保育上又は生活上の困難とその対応</p>			
<b>定期試験</b>			
テキスト 授業前に担当教員が作成したプリントを配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 幼稚園教育要領(文部科学省)／小学校学習指導要領(文部科学省)／中学校学習指導要領(文部科学省)／高等学校学習指導要領(文部科学省)／特別支援学校学習指導要領(文部科学省)			
<b>学生に対する評価</b>			
授業への取り組みの状況(40%)、及び定期試験(60%)により総合的に評価する。			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石井美和 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 幼稚園を含む学校の教育課程（カリキュラム）について、その意義や編成の原理を理解し、カリキュラム・マネジメントのあり方について理解する。教育課程の歴史の変遷とその背景にある社会的要請や能力観について、学習指導要領と関連付けて理解する。			
授業の概要 教育課程の編成原理やカリキュラム・マネジメントのあり方について学び、教育課程が学校教育において果たす意義を理解する。 国が定める教育課程の大綱である学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷から教育課程が社会の変化に応じて変化するものであることを学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：「教育課程」を学ぶことの意味 第2回：教育課程とは何か 第3回：教育課程の編成原理とその思想 第4回：教育課程に関する法律と制度 第5回：学習指導要領・幼稚園教育要領とその変遷①：1950～60年代 第6回：学習指導要領・幼稚園教育要領とその変遷②：1970～80年代 第7回：学習指導要領・幼稚園教育要領とその変遷③：1998年・1999年の改訂 第8回：近年の学習指導要領・幼稚園教育要領の特徴：アクティブ・ラーニングの導入 第9回：幼児教育における教育課程 第10回：教育課程の変遷と能力観 第11回：教育課程の編成の実際 第12回：教育課程と授業実践 第13回：カリキュラム・マネジメントの理論と実践 第14回：保幼小の連携と接続カリキュラム 第15回：まとめ：オルタナティブな教育課程の模索 定期試験			
テキスト 井藤元・尾崎博美編著『ワークで学ぶ教育課程』ナカニシヤ出版			
参考書・参考資料等 授業で配布する 幼稚園教育要領(文部科学省)／小学校学習指導要領(文部科学省)／中学校学習指導要領(文部科学省)／高等学校学習指導要領(文部科学省)(最新版)			
学生に対する評価 期末試験50%、授業内小レポート30%、グループワークへの参加度20%			

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：清水 禎文 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)(幼稚園) 教育の方法及び技術(小学校及び中学校 英語)		
授業のテーマ及び到達目標 教育方法の理論や実践から、子どもの成長と発達における「感覚」「自己表現」「人間関係」の獲得過程について学習し、子どもの主体性を育む実践について考察する。到達目標は、以下の4点である。①教育方法の理論を理解すること。②子どもの成長過程における「感覚」の意義を考えること。③子どもたちの多様な「自己表現」と「人間関係」を理解すること。④子どもの主体性を引き出す教育実践について考える			
授業の概要 幼稚園や小・中・高等学校に必要とされる教育の方法および技術について、基礎的知識を習得するとともに、それをもとに学習指導のあり方を検討する。また、ICTの活用や教育メディア・各種教材の活用法方などについても取り上げる。			
授業計画 第1回： オリエンテーション 教育方法を学ぶ意義 第2回： 教授と学習の土台としての「ケア」 第3回： 教育方法の基礎 生の感覚から主体的な学びへ 第4回： 教育方法の基礎 主体的な学びを引き出す教師の役割 第5回： 教育方法の基礎 学びの時間・空間・仲間 第6回： 教育方法の理論 感覚を重視する教育理論の系譜 コメニウスからペスタロッチ 第7回： 教育方法の理論 感覚を重視する教育理論の系譜 ヘルバルトからデューイ 第8回： 教育方法の理論 感覚を重視する教育理論の系譜 アメリカ進歩主義の教育理論 第9回： 教育方法の理論 感覚と愛着形成から言語獲得へ 第10回： 教育方法の理論 読み聞かせの意義と効果 第11回： 教育実践から学ぶ「自己表現」の引き出し方 アトム共同保育所 第12回： 教育実践から学ぶ「自己表現」の引き出し方 いのちの授業 第13回： 教育実践から学ぶ「自己表現」の引き出し方 教育者の関わり方 第14回： ICTの活用 ICT活用の実践事例 第15回： ICTの活用 ICT活用の方法 定期試験			
テキスト 教科書は使用しない。			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(文部科学省)／小学校学習指導要領(文部科学省)／中学校学習指導要領(文部科学省)／高等学校学習指導要領(文部科学省)(最新版)			
学生に対する評価 毎回の講義のふり返しシート(ミニツペーパー)(50%)と期末試験(レポート)(50%)による。レポートの評価規準は、予めルーブリックで提示する。			

授業科目名： 子どもの理解と援助	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三浦 主博 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>			
①幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 ②幼児理解の方法を具体的に理解する。			
<b>授業の概要</b>			
<p>幼児期の著しい発達について学び、その発達の原動力となる幼児と幼児を取り巻く環境との相互作用について理解を深める。また、そのために必要な観察法についても学び、観察を通して幼児の行動の意味を読み取り、幼児の感性に共感し、幼児と信頼関係を築く過程について具体的な事例を通して学び、一人一人の子どもの発達に応じた支援の方法について学ぶ。加えて、発達の遅れや偏りなどの問題への対処法や、保護者との連携・子育て支援の方法について学ぶ。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>第1回：オリエンテーション、幼児理解の意義  第2回：幼児期の発達の諸理論  第3回：認知の発達  第4回：人間関係の発達  第5回：自己の発達  第6回：情動の発達  第7回：言葉とコミュニケーションの発達  第8回：遊びの発達と仲間関係  第9回：保育者の援助と役割  第10回：幼児期の発達障害  第11回：幼児期の気になる癖  第12回：保育に生かす観察法  第13回：発達の診断と発達検査  第14回：保護者理解と家庭との連携  第15回：まとめ、幼児の最善の利益を目指して</p> <p>定期試験</p>			
<b>テキスト</b>			
子どもとかかわる人のための心理学（沼山博・三浦主博編著、萌文書林）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
幼稚園教育要領解説（文部科学省）／保育所保育指針解説（厚生労働省）／幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省）			
<b>学生に対する評価</b>			
授業への取り組みの状況(40%)、期末試験(60%)により総合的に評価する。			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：八木 孝憲 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 学校における教育相談の意義と課題を理解するとともに、心理学的な基礎理論とを理解してカウンセリングの初歩的な技法を身につける。</p> <p>(2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの重要性を理解する。</p> <p>(3) 幼児、児童・生徒理解の意義と方法を理解する。</p> <p>(4) いじめ、不登校（園）、児童虐待、非行等の問題行動を理解し、それぞれの個に応じた教育相談の進め方を考えることができる。</p> <p>(5) 子どもだけではなく保護者等との教育相談の必要性を理解し、その計画や進め方を例示することができる。</p> <p>(6) 医療、福祉、心理、その他の関係機関との連携や「チーム学校」としてかかわることの重要性を理解する。</p>			
授業の概要 教育相談の意義とその必要性を理解し、カウンセリングの初歩的な技法を身につけ活用できるようにする。また、日常的な教育相談のあり方やいじめや不登校（園）、暴力や非行その他の問題行動等の現場における現状と課題について理解を深め、適切に予防、未然防止、対応ができるようにする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の概要と目標、評価）教育相談とは何か			
第2回：教育相談の種類と担い手			
第3回：子どもの発達をとらえた教育相談			
第4回：家庭で育つ心と学校で育つ心			
第5回：言葉と体を通して見えてくる子どもの心			
第6回：話を聴くためのこころ構えとカウンセリングの初歩的な技法			
第7回：気になる子どもへのかかわり			
第8回：気になる親へのかかわり			
第9回：いじめの理解とかかわり			
第10回：不登校・登園しぶりの理解とかかわり			
第11回：発達障がいの理解とかかわり			
第12回：校内・園内での組織的な教育相談			
第13回：関係機関との連携			
第14回：教師自身のケア			
第15回：まとめと振り返り、今後の展望			
定期試験			
テキスト 使用しない。毎回授業時に講義資料を配布する。			
参考書・参考資料等「これからの教育相談：答えのない問題に立ち向かえる教師を目指して」 高岸幸弘，井出智博，蔵岡智子 北樹出版			
学生に対する評価	期末試験	40%	択一式問題及び小論文
	レポート（1回）小テスト（2回）	30%	授業中に課題を提示する。
	意欲	30%	積極的な参加・発言

## シラバス：教職実践演習

保育・教職実践演習(幼稚園)		単位数：2単位	担当教員名：三浦主博、八木孝憲		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数	35人(2クラス)				
教員の連携・協力体制 担当教員が連携してあたるとともに、ゲストティーチャーの協力を仰ぐ。					
授業のテーマ及び到達目標 ①学内での学修および教育・保育実習を通しての学び等を振り返り、自己の課題を明確する。 ②保育実践に必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認する。③保育者としての倫理観と規範意識を持ち、適切に行動できるようになる。④子どもの発達や心身の状況に応じて、適切な指導を行うことができるようになる。⑤子どもの状況等に応じて、指導計画や保育環境等を工夫できるようになる。					
授業の概要 4年間の学びの総まとめとして、教職課程(幼稚園教諭)および保育士養成課程における学修(授業や教育実習や保育実習等)の振り返りを行い、卒業後に保育者(幼稚園教諭・保育教諭・保育士)として働くために必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認して、自己の課題を明確にする。その上で、保育者として必要な資質能力や技能を身につけていくため、グループ討論、ロールプレイ、模擬保育、事例研究等を行う。					
授業計画 第1回：これまでの学修の振り返り(履修カルテの記入と確認) 第2回：保育・教育実習の学びの振り返り 第3回：子ども理解について：事例検討 第4回：子ども理解とクラス運営 第5回：社会性・対人関係能力について 第6回：保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任(幼稚園長) 第7回：保育現場の見学・調査 第8回：模擬保育のための指導計画の作成 第9回：指導計画に基づく模擬保育(集団遊び・ゲーム)①回目 第10回：保育内容等の指導力についての振り返り①回目(グループ討論) 第11回：指導計画に基づく模擬保育(集団遊び・ゲーム)②回目 第12回：保育内容等の指導力についての振り返り②回目(グループ討論) 第13回：危機管理・保育のトラブル対応(ロールプレイ) 第14回：保護者対応について(ロールプレイ) 第15回：保育者としての資質能力の確認・まとめ 定期試験は実施しない。					
テキスト 幼稚園教育要領解説(文部科学省)／保育所保育指針解説(厚生労働省)／幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)					
参考書・参考資料等 授業内で適宜指示する。					
学生に対する評価 授業への取り組み状況(50%) 提出課題(50%)により総合的に評価する。					

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡 敬一郎 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教師という仕事を改めてひとつの職業としてとらえ、その魅力を理解するとともに、教師に関する基礎的・基本的知識を身につけることを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教員という存在の社会的・歴史的意義を確認したうえで、教員に関する制度を概観し、チーム学校運営への対応を含めた教員を取り巻く現代的課題について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教職の意味 第2回：教職の意義 第3回：教職の成立 第4回：教師像の変遷 第5回：教員の資質能力 第6回：教員の職種・職務 第7回：教員の養成・採用 第8回：教員の身分 第9回：教員の服務 第10回：教員の勤務 第11回：教員の研修 第12回：教員の資格・免許 第13回：チーム学校運営への対応 第14回：教員評価、まとめのテスト 第15回：教職の現代的課題に関する分析と討論</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>『必携教職六法』（高見茂監修、協同出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>			
<p>学生に対する評価 毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）、課題レポート（20%）、授業中に実施するまとめのテスト（50%）</p>			

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：越中康治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 道徳教育・道徳発達に関する基礎的事項を理解し、説明できるようになるとともに、学習指導案の作成、指導の展開、評価ができるようになることを目標とする。			
授業の概要 現在のわが国の道徳教育の問題点や課題について検討するとともに、道徳発達及び道徳教育に関する様々な理論と実践との関連について考察する。また、学習指導案の作成、指導の展開、評価、さらには現場における実践のあり方について考える。			
授業計画 第1回：道徳性に関する心理学的基礎 第2回：道徳発達観・指導観の多様性 第3回：道徳発達の古典的理論 第4回：道徳発達に関する理論の展開 第5回：道徳発達に関する理論と実践との関連 第6回：道徳性に関する教育学的基礎 第7回：諸外国の学校における道徳教育 第8回：道徳の本質と道徳教育 第9回：わが国の学校における道徳教育の歴史 第10回：学校現場における道徳教育の実践 第11回：道徳教育の実際と学習指導要領 第12回：学習指導案の作成 第13回：指導の展開 第14回：道徳の評価 第15回：模擬授業の実施と振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト 有光 興記・藤澤 文（編） モラルの心理学—理論・研究・道徳教育の実践— 北大路書房 2015年			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領(文部科学省)／中学校学習指導要領(文部科学省)(最新版)			
学生に対する評価 毎回の授業の最後に提出する小レポート(70%)，課題レポート(30%)			

授業科目名: 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:本図愛実 大沼あゆみ 佐藤淳 一 石森広美 担当形態:複数・オムニバス
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 到達目標は、探究的な見方・考え方や教科横断的・総合的な学びを活かし、課題の解決を目指し、よりよく生きようとする資質能力を育成するための指導力について理解することである。 グローカルな世界観や多面的な見方の基に実態分析を行いつつ、総合的な学習の時間の意義、各学校における目標・内容を定める際の考え方、総合的な時間の指導計画作成の考え方、その実現のために必要な基礎的な事項について説明ができるようになる。これらを基に、総合的な学習の時間の指導と評価の在り方や実践上の留意点を踏まえ、必要とされる資質・能力を育成するためのカリキュラムをデザインすることができる。			
<b>授業の概要</b> 「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」における探究的な学びが、学校段階においてどのような異同とともに意義をもつのか、それぞれの発達段階に適した内容・方法、教育課程全体において果たす役割、教科横断的な活動・指導展開について、学校の教育実践レベルでの具体的な事例の分析とそれに基づく協議を通して学ぶ。 年間指導計画や単元の内容・指導の立案、具体的な指導・評価の進め方について、具体例の分析とそれに基づく協議を通して学び、探究的な学びとしての「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」についてカリキュラムのデザインを行う。			
<b>授業計画</b> 第1回 総合的な学習の時間の意義と原理 ～ 探究的な学びと教師集団の成長(小学校) (本図・大沼) 第2回 総合的な学習の時間の意義と原理 ～ 震災復興という社会的課題への対応(小学校) (大沼) 第3回 総合的な学習の時間の意義と原理 ～ 震災復興という社会的課題への対応(中学校) (佐藤・大沼) 第4回 総合的な学習の時間の意義と原理 ～ 学校教育目標の実現 (大沼) 第5回 総合的な学習の時間の年間指導計画 ～ 仙台市の好事例から (佐藤・大沼) 第6回 総合的な学習の時間の単元指導計画 ～ 主体的・対話的な深い学びを実現するには(小学校) (大沼) 第7回 総合的な学習の時間の単元指導計画 ～ 主体的・対話的な深い学びを実現するには(中学校) (佐藤・大沼) 第8回 探究的な学びを実現する手立て ～ 地域素材・外部人材・ICTの活用(小・中学校) (佐藤・大沼) 第9回 評価の指導上の留意点と評価の方法 (大沼) 第10回 評価の指導上の留意点と評価の方法 ～ 仙台自分づくり教育から (佐藤・大沼) 第11回 義務教育段階における探究的な学びのデザイン・これまでの学習のまとめ (佐藤・大沼) 第12回 総合的な探究の時間の意義と原理 ～ グローカルな世界との関わり(小・中・高) (石森・大沼) 第13回 総合的な探究の時間の年間指導計画・単元計画 ～ 主体的・対話的な深い学びを実現するには (石森) 第14回 評価の指導上の留意点と評価の方法(中学校・高校) (石森) 第15回 まとめ ～ 探究的な学びのカリキュラム・デザイン (石森) 定期試験は実施しない。			
<b>テキスト</b> 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)・小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)・中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)・高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編 佐藤淳一(2022)『「たくましく生きよ」そして「共に生きる」』ワニブックス 石森広美(2019)『「生きる力」を育むグローバル教育の実践——生徒の心に響く主体的・対話的で深い学び』明石書店			
<b>参考書・参考資料等 適宜指示する</b>			
<b>学生に対する評価 授業時に課す小レポート(40%)、最終レポート(60%)</b>			

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤淳一 安倍啓司 担当形態：複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標 特別活動の意義、目標や内容、指導法を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。①学校教育の今日的課題とのかかわりから特別活動の教育的意義・役割を考え、目標と内容及び指導上の留意点について説明することができる。②各活動や学校行事の目標や内容、特質、取組の評価・改善の重要性について説明することができる。③教育課程における特別活動の役割や各教科等との関連、家庭や地域社会との連携のあり方について述べる。④「学級活動」の学習指導案を作成することができる。模擬授業を通して、学習指導上の在り方について考えを述べる。⑤子どもたちの学級担任としてどのように特別活動を展開していくか、実践レベルにおいて考えを述べる。</p>			
<p>授業の概要 ・学習指導要領等を手がかりとして特別活動の意義、目標や内容、指導法を理解し、学級経営における指導の現状・課題等について具体例の分析とそれに基づくグループ討議、全体討議等のアクティブ・ラーニングを通して理解する。 ・学校としての特別活動の全体計画や学年毎の年間指導計画、評価の視点と方法について、事例を提示してその理解を深める。 ・4領域の一つである「学級活動」については、受講生の経験も素材にしながら教育実践レベルでの具体的な事例の分析とそれに基づくグループ討議、全体討議等のアクティブ・ラーニングを通して体験的に学ぶ。また、実践例をもとに指導案作成の方法を理解し、グループ・ワークによる指導案作成や模擬授業、授業についての全体討議等のアクティブ・ラーニングを通して授業の進め方について理解を図る。 ・「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」については、実践レベルでの具体的事例分析とグループ討議や全体討議等のアクティブ・ラーニングを通して指導法について体験的に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:本授業のねらいと概要説明(佐藤・安倍)</p> <p>第2回:特別活動の歴史の変遷と学校の現状(佐藤・安倍)</p> <p>第3回:これからの教育や特別活動の方向性(佐藤・安倍)</p> <p>第4回:学習指導要領における特別活動の意義、目標や内容(安倍)</p> <p>第5回:教育課程における特別活動の役割・取組と家庭・地域社会との連携(安倍)</p> <p>第6回:学習指導要領における各活動の目標・内容や特質と取組の評価・改善(安倍)</p> <p>第7回:児童・生徒理解や生徒指導、学級経営との関連(安倍)</p> <p>第8回:学級活動の内容と進め方、キャリア教育の進め方(安倍)</p> <p>第9回:児童会・生徒会活動、クラブ活動の内容と進め方(安倍)</p> <p>第10回:学校行事の内容と進め方(安倍)</p> <p>第11回:学級活動案の指導案作成の基本(佐藤・安倍)</p> <p>第12回:学級活動の指導案の作成(佐藤・安倍)</p> <p>第13回:学級活動の模擬授業(佐藤・安倍)</p> <p>第14回:模擬授業の評価とよりよい学習指導案の方向性(佐藤・安倍)</p> <p>第15回:まとめ(佐藤・安倍)</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編」「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」</p>			
<p>参考書・参考資料等 授業中に指示する</p>			
<p>学生に対する評価 ・授業への参加態度:グループ協議・演習・発表におけるパフォーマンス等(30%) ・授業における演習及び振り返りカード(40%)…授業において演習結果やそのコメントを紹介する。 ・定期試験における論文テスト(30%)</p>			

授業科目名： 教育とICT活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：呂光暁 担当形態：単独
科 目	道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では, 情報通信技術の特性を理解するとともに, 学校教育におけるICT活用の意義と方法, 特に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成する意義と方法を身につける。具体的な到達目標は次の3点となる。①学校教育におけるICT活用の意義や理論について理解することができる。②ICTを活用した学習指導や校務運営の現状と課題及び方向性について理解することができる。③情報活用能力(情報モラルを含む)を育成する意義と育成方法を身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育におけるICT(情報通信技術)の歴史的変遷, 現状と課題を理解するとともに, 社会の変化に伴うICTの方向性を検討する。また, 教科指導や評価, 生活指導, 校務運営, 児童生徒の学習といった活動におけるICT活用の意義と方法について, 実践例を用いながら解説する。さらに, 新しい社会状況から求められる情報活用能力(情報モラルを含む)について, その構成要素及び育成する方法等について学習する。授業は, 講義法とともに, 受講生が主体となる参加型の学習活動を用いて展開していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 現代社会におけるICTの役割 第2回：教育におけるICTの進展及び最先端のデジタルコンテンツ 第3回：効果的な学習指導と評価を実現するICTの活用 第4回：個別最適な学びを支えるICTの活用と遠隔授業 第5回：校務の推進を高めるICTの活用 第6回：児童生徒の情報活用能力の中身 第7回：情報活用能力の育成方法 第8回：ICTを活用した模擬授業</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時にその都度指示し, 必要な教材や資料は印刷し配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『ICT活用の理論と実践:DX時代の教師をめざして』, (稲垣忠・佐藤和紀、北大陸書房, 2021)</p>			
<p>学生に対する評価 ワークシート等の提出物と授業への参加意欲(40%)と定期試験の結果(60%)を総合して評価する。</p>			

授業科目名：生徒指導 ・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山崎洋史 佐藤淳一
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。この授業では、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることを目標とする。 また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。この授業では、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につけることを目標とする。			
<b>授業の概要</b> 生徒指導及び進路指導の教育的意義を踏まえ、まずそれぞれの指導において前提的基礎となる生徒理解の在り方や方法論について概説する。その後、生徒指導、進路指導それぞれの目標設定、実施体制、具体的活動内容、留意すべき事項等について詳しく説明する。最後に、個性実現と指導の関係について総論的に述べる。			
<b>授業計画</b> 第1回：学校教育における生徒指導・進路指導の位置づけ：教育的意義と課題、法的・制度的根拠(山崎) 第2回：生徒指導・進路指導と生徒理解：個別性・個性の把握、人間観、発達観、所属文化の理解(山崎) 第3回：生徒理解の対象領域(1)：パーソナリティ、能力・適性の多様性、発達の諸側面(山崎) 第4回：生徒理解の対象領域(2)：個人差、自己形成、所属下位文化(家庭・地域社会)(山崎) 第5回：生徒理解の方法(1)：観察法、検査法、調査法(山崎) 第6回：生徒理解の方法(2)：面接法、事例研究法、ポートフォリオ(山崎) 第7回：学校における生徒指導体制：生徒指導部、教育課程とのリンク、学校内外の資源との連携(山崎) 第8回：生徒指導の活動内容：校則指導、集団指導、教育相談、教職員間の協力体制、家庭との連携(佐藤) 第9回：生徒指導の諸問題：怠学、不登校、集団不適応、いじめ、非行、休・退学、社会的背景状況(佐藤) 第10回：学校における進路指導体制：進路指導部、教育課程とのリンク、家庭や関係資源との連携(佐藤) 第11回：進路指導の活動内容(1)：進路情報提供、啓発活動、職業体験、生徒の自己理解促進(佐藤) 第12回：進路指導の活動内容(2)：キャリアカウンセリング、進路の決定、フォローアップ(佐藤) 第13回：進路指導の現実と課題：進路決定不能、非主体的進路選択、進路選択のつまずきと立て直し(佐藤) 第14回：キャリア教育という視点：進学・就職に止まらない人生の生き方の探求という視点(佐藤) 第15回：個性化と社会化：個々の特性を社会的文脈の中で実現することの意義と課題(佐藤)			
定期試験			
テキスト	授業時にプリントを配布する		
参考書・参考資料等	文部科学省「生徒指導提要」		
<b>学生に対する評価</b> 定期試験（60％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40％）			

## シラバス：教職実践演習

教職実践演習（小・中）		単位数：2単位		担当教員名： 教科担当：呂光暁 教職担当：岡敬一郎	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数35人（2クラス）					
教員の連携・協力体制 教職担当教員と教科担当教員が連携してあたるとともに、ゲストティーチャーの協力を仰ぐ。					
授業のテーマ及び到達目標 教員としての使命感や責任感、教諭としての職務の理解、教員が身につけるべき社会性・対人関係能力、教育実践における児童・生徒理解と指導力・実践力などの向上を図る。					
授業の概要 グループ討論や事例研究、ICTを活用した模擬授業などを通して、教員としての素養や指導力・実践力が身につけているかを確認するとともに、目標や課題を定めて自己の研鑽に努める。とくに教科の時間の計画と実践については教科専門担当教員が参画して指導案の作成や模擬授業を実施する。					
授業計画 第1回：教職課程履修の意義（講義と討論） 第2回：自分の学びと力量の振り返り（履修カルテを通じて） 第3回：教員の職務と社会的責任（講義と討論） 第4回：児童生徒に対する基本姿勢（事例研究） 第5回：教員組織内での役割（事例研究） 第6回：保護者・地域住民との連携（事例研究） 第7回：児童をめぐる諸問題へのアプローチ（ロールプレイングと討論） 第8回：ゲストティーチャーによる講演と座談会 第9回：教科の時間の計画と実践（教科別指導法） 第10回：ICTを活用した教科の計画と実践（指導案の作成（小学校）） 第11回：ICTを活用した教科の計画と実践（模擬授業（小学校）） 第12回：ICTを活用した教科の計画と実践（指導案の作成（中学校）） 第13回：ICTを活用した教科の計画と実践（模擬授業（中学校）） 第14回：国と地方の教員資質向上策を考える（講義と討論） 第15回：学び続ける教員をめざして（講義と討論） 定期試験は実施しない。					
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。					
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領(平成29年告示)（文部科学省）、中学校学習指導要領(平成29年告示)（文部科学省）					
学生に対する評価 各領域での発表・模擬授業などへの取り組み（30%）、課題レポート（70%）					

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。